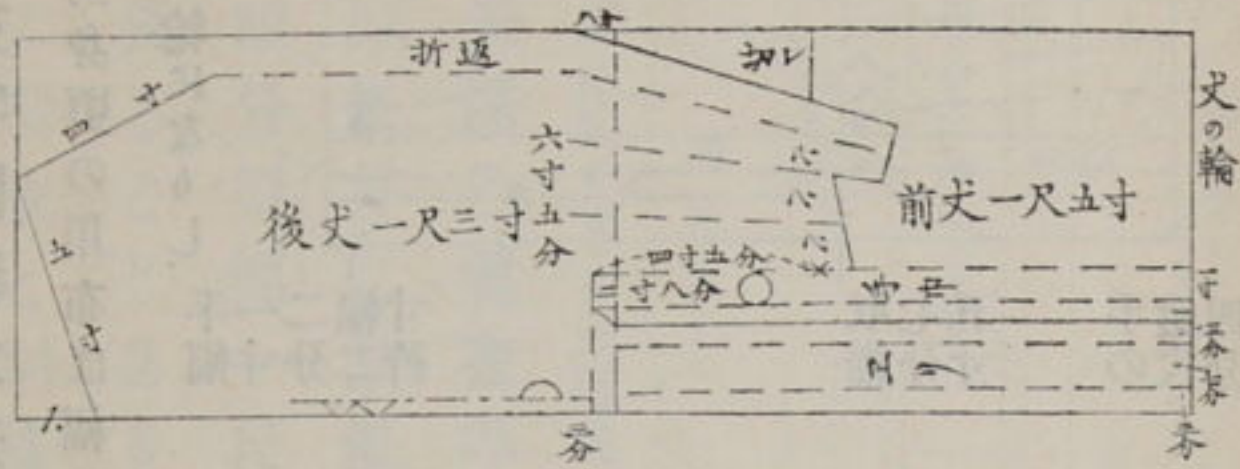
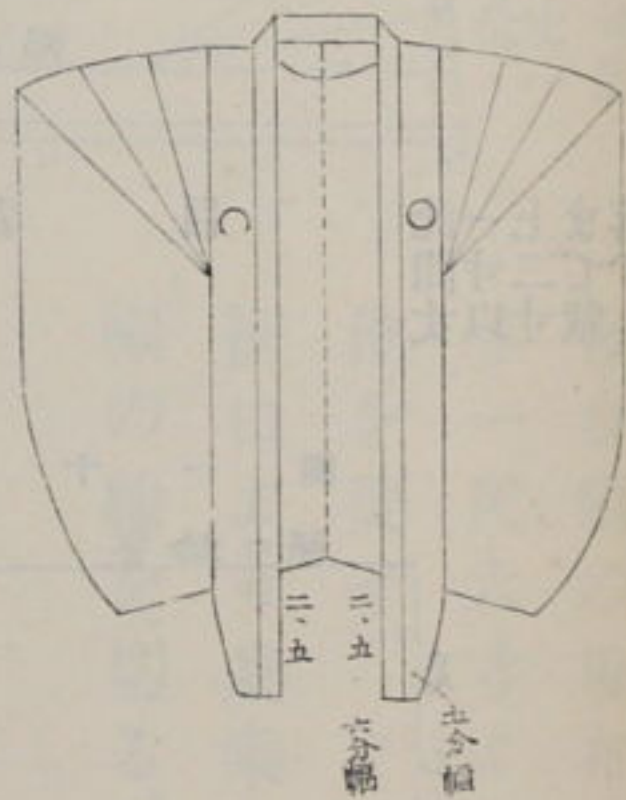


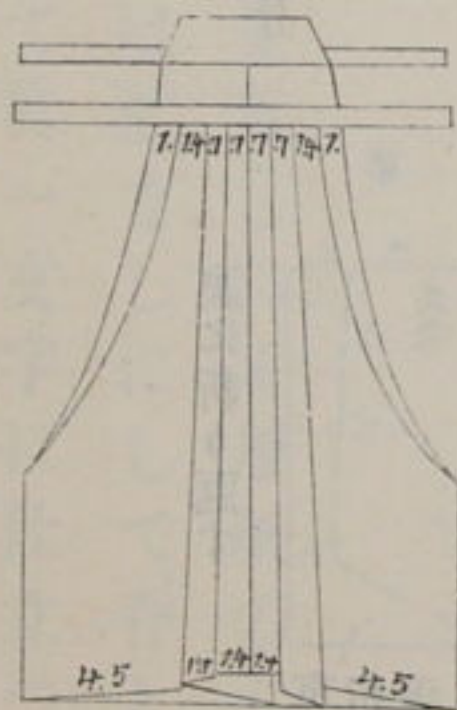
五十六歳の肩衣の裁方



社の上來圖



袷の上來圖



半長袴は三尺より三尺五寸、本長袴は四尺五寸より五尺に至る、仕立方は何れも同様なり。

縫方。中一文字と同様。

○十歳位の肩衣の裁方。(第六十七圖)

裁方。大人物の時と大差なし只だ寸法の異なるのみなれば畧す。

用布常幅にて六尺四寸、後丈一尺五寸、前丈一尺七寸、手幅一寸一分、衿幅八分。

○五六歳の肩衣の裁方。

地質前に同じ。

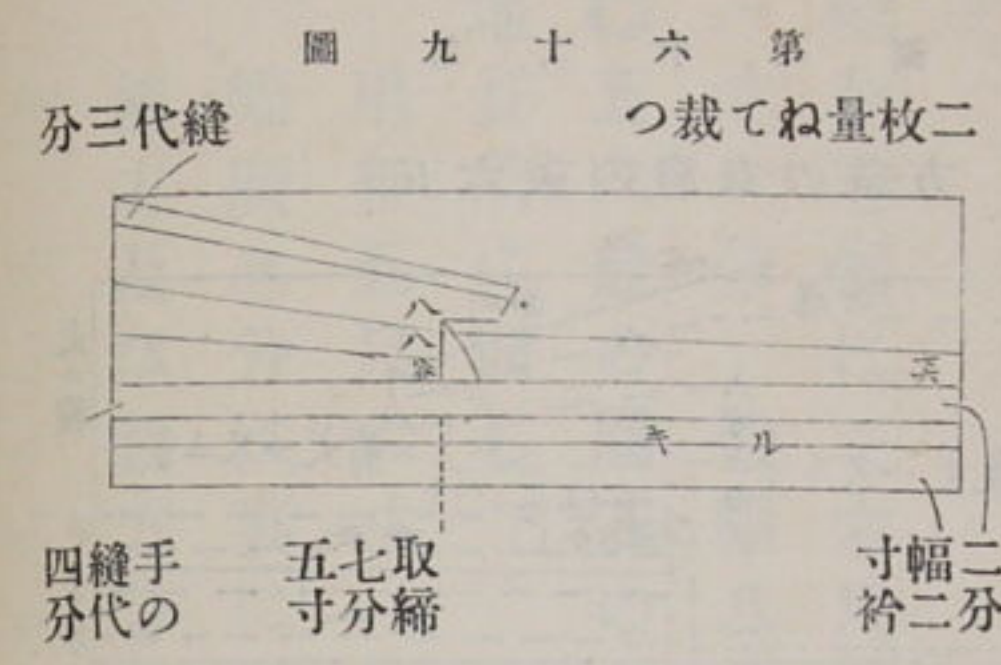
用布五尺六寸、後丈一尺三寸、前丈一尺五寸、幅廣き分は裏に折返す。

縫方及び裁方等前に同じ。

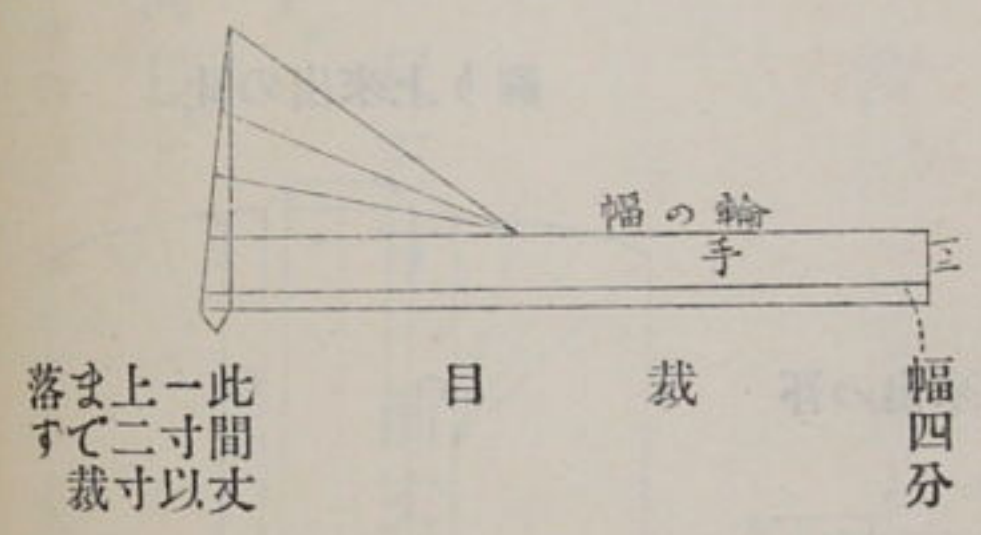
○眞一文字即義太夫語等の着する肩衣の裁方。(第六十九圖)

但前身頃の用布は幅一尺一寸長さ四尺二寸を要す。

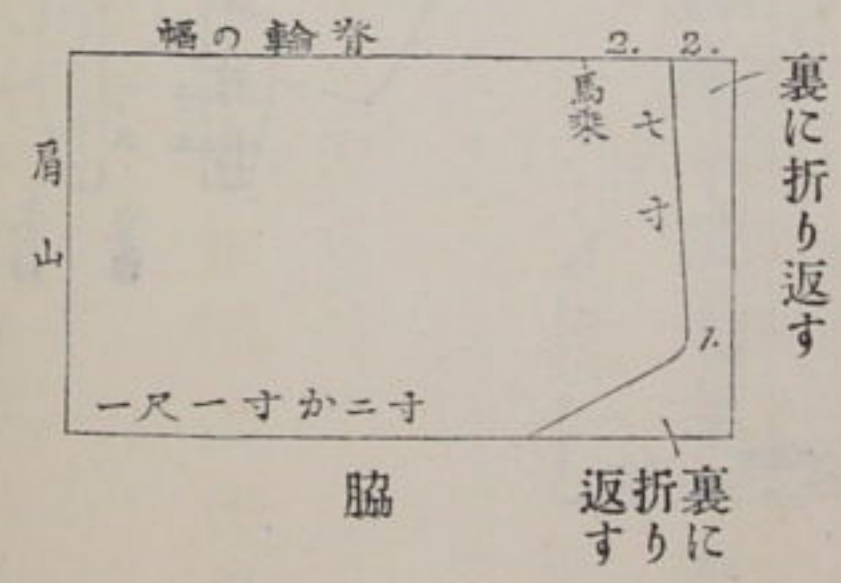
丈の輪になりし
處



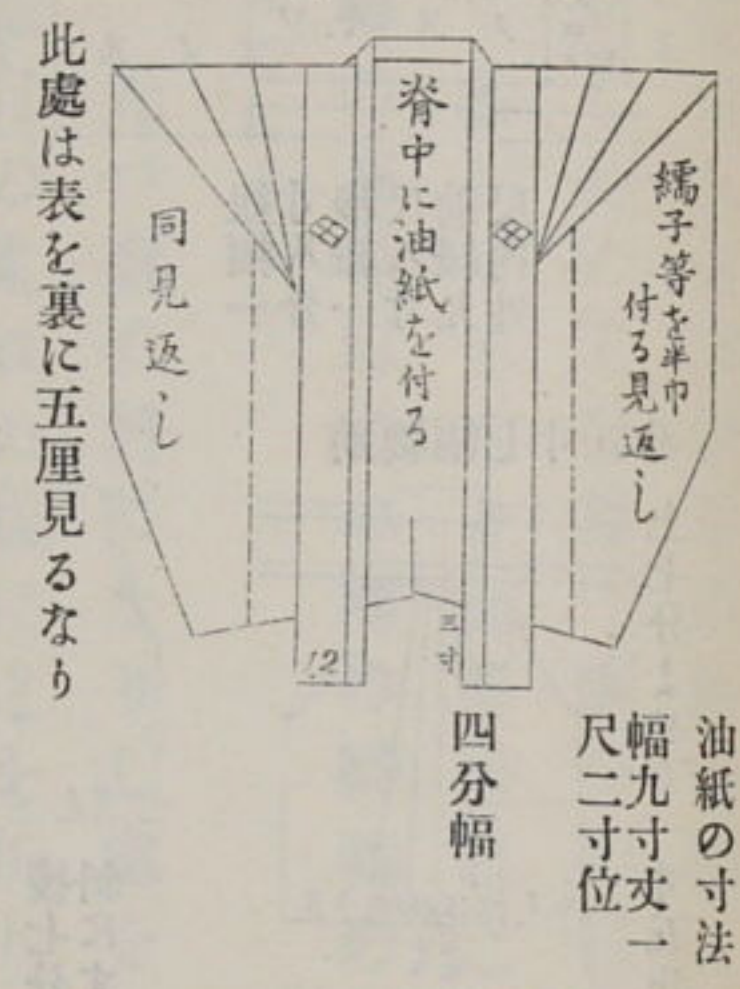
圖十七第
稜を取てり肩を眞直に裁つ



圖一十七第
脊の輪の幅



圖二十七第
義太夫語の肩衣



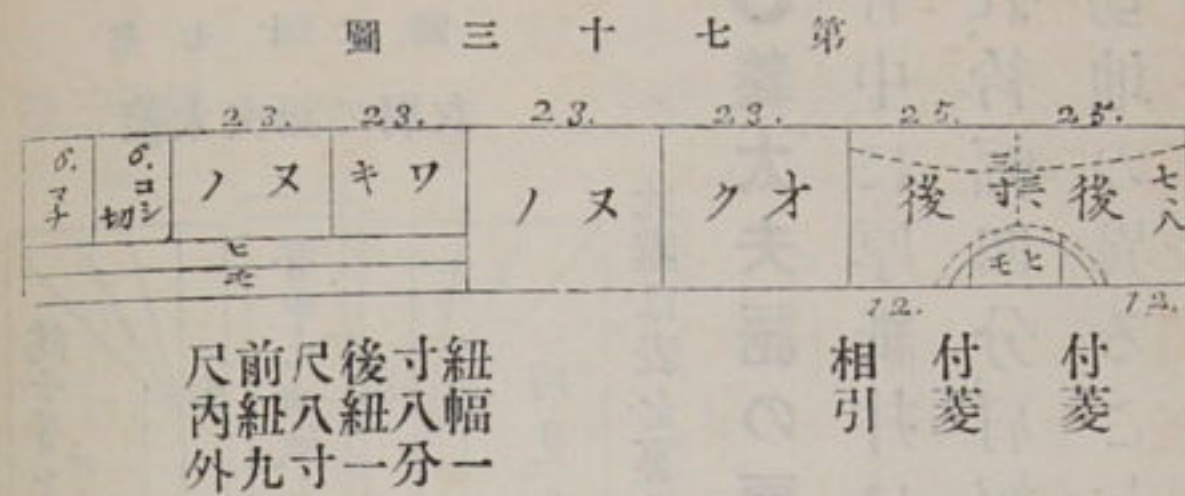
此處は表を裏に五厘見るなり

○義太夫語の肩衣の仕立方。

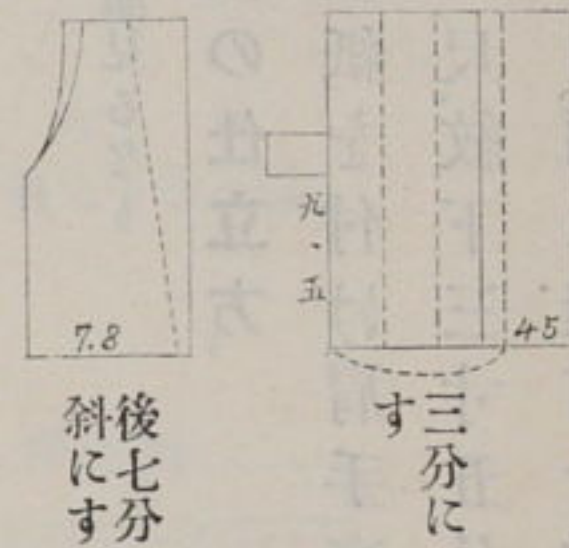
脊中に厚紙并に油紙を付け、肩手裏及見返しにも厚紙の心を入れ、衿幅四分、肩幅一尺、紋下三寸五分、脊は紋なしにして、脊と前と切地の異なることあり、肩に縫目を付けて眞一文字に仕立つ、其他は通常の肩衣と同様なり。

後身頃の用布は幅二尺、長さ一尺六寸より一尺八寸位を要す。
裾口より馬乗印の所まで幅の輪を切る。

○小袴の裁方。(第七十三圖)

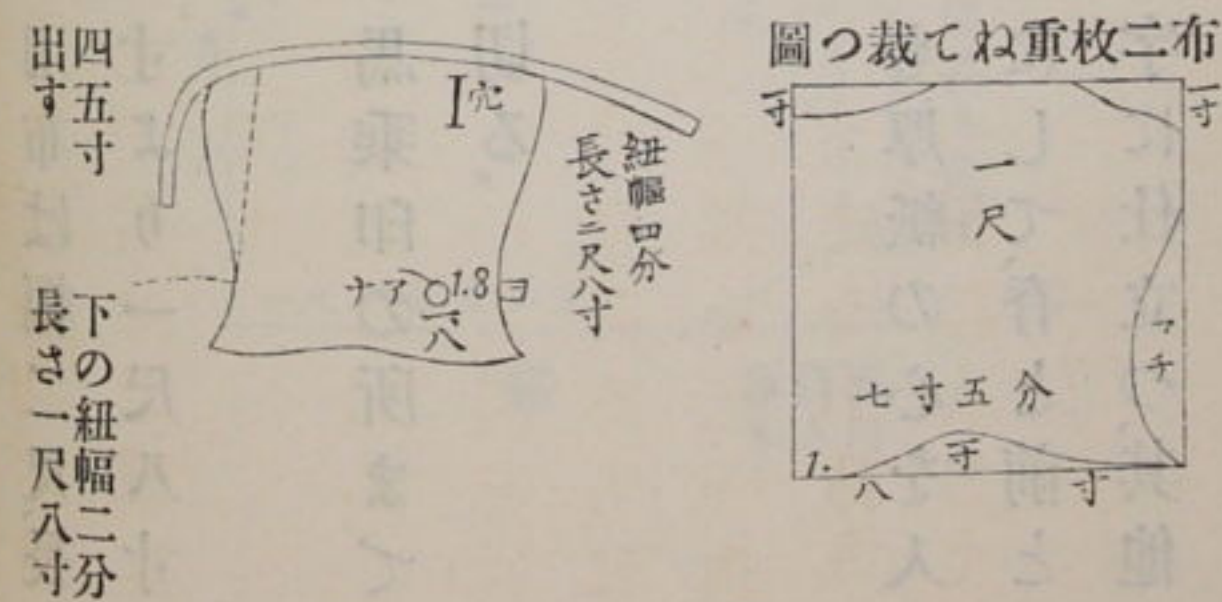


前腰幅七寸五分



算式
 前 23, × 6 = 138,
 138, + 4, + 12, = 154,
 前の腰及袴用の布
 後差切襠の布

第七十四圖



小袴の用ひ方は、通常の袴の如く着用し、遠足るときは、共切の脚絆を着し、膝の下に於て、裾口の紐を引締め、裁附袴を着せし様になして着用するなり、裁附袴は之を畧したるものなり。

○常幅の布を以て、小袴の脚絆の裁方。之を大津脚絆と云ふ。

襠丈七寸五分。

縫方。先づ襠の斜になりし處を身に縫付け、其縫込は身の方に折り、裁目の亂れぬ様に之を折り、仗縫をなし、次に兩端を三つ折になして、捻糸を以て小針に縫ひ、(但二針三針縫ひて之を引抜き、一針返して糸を少しつりて又縫ふ)次に裾口を三つ折になして縫ひ、次に紐を付け、次に穴縫をなすなり。

○常幅の布を以て、指貫袴の裁方。(第七十五圖)

地質 綾、紗にて紋織と無紋とあり。

方裁の袴貫刺てひ用を切別は紐○

圖六十七第

七寸	後	前	前	前	後	後
襠	後 奥同	前 奥同	前	前	後	後

算式
 $31,5 \times 6 = 189,$
 $189, + 7, = 196,$ 布用襠

縫方並に前稜
 の取方は
 同様に
 白羽二重
 と長さ一
 幅長さを
 要す

丈三尺一寸五分

方裁の袴貫刺の都京○

但後二布前左右一布半遺ひ
 仕立方は前と同様

圖七十七第

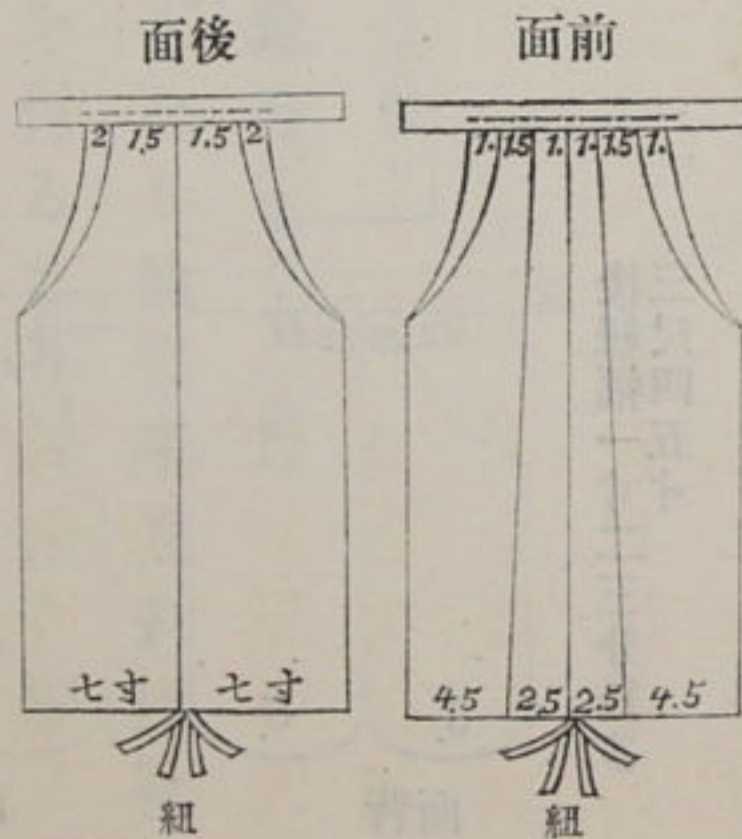
七寸	同	前	前	後	後
襠	同	前	前	後	後

後紐
 尺前内九

三尺一寸五分

注意

刺貫袴は、單或は裏付、或は膝の下に於てくさり付け、或は裾口を腰部の方に釣上ぐるもあり。



裾を紵け、次に中稜は馬乗の後稜の様に六分程交へて稜を取り、其他の稜は通常の袴と同様に取り、裾口に紐を通すなり。

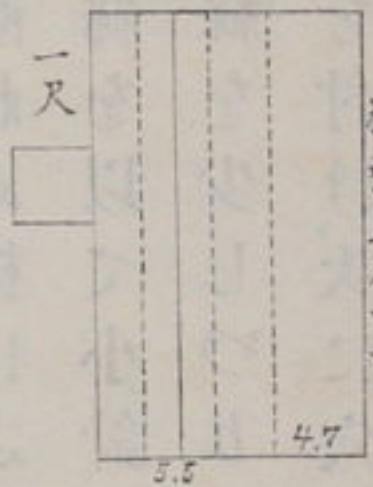
圖五十七第

七寸	同	前	同	後	前	前	後	後
襠	同	前	同	後	前	前	後	後

前紐八尺以上
 但紐は裏に
 絹を付け鯨
 帯の様にす
 のなり

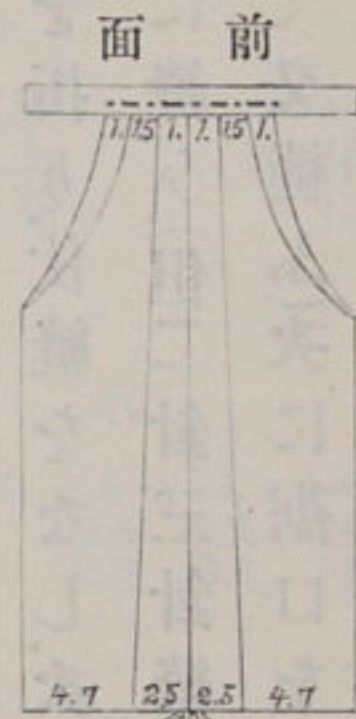
後紐四尺五寸

様同後前



相引二尺一寸

算式
 $31,5 \times 8 = 252,$
 $252, + 7, = 259,$ 用布襠

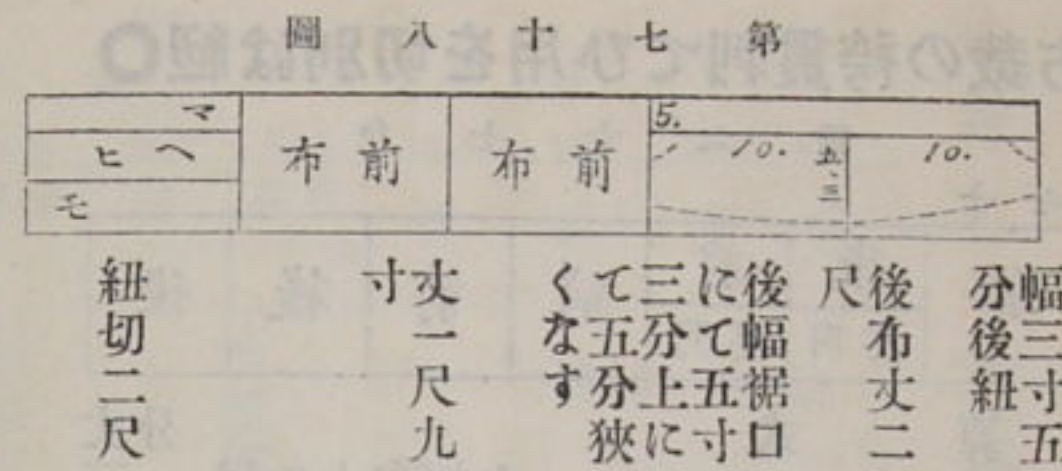


指貫の出来上り圖

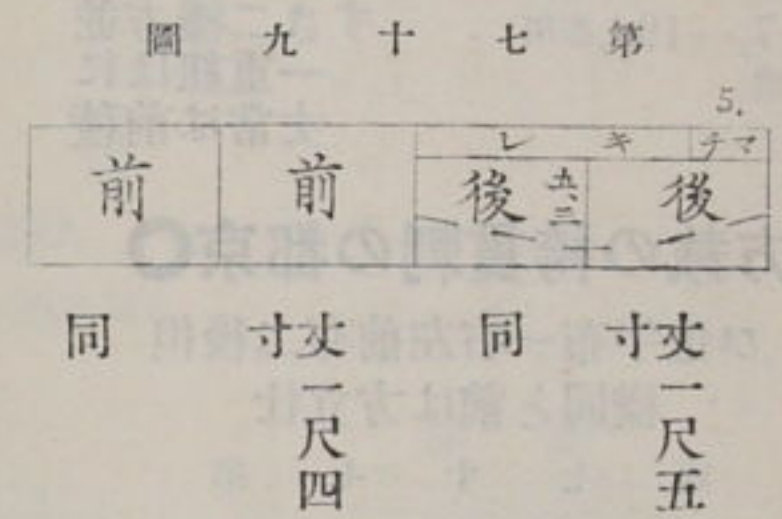
縫方。先づ後布を縫ひ、角襠を付け、次に前布を縫ひ、次に相引を縫ひ、其縫目は前の方に折を付け、次に膝上を縫ひ、次に

色は紫、薄紫、老年になる程薄色になす、表葛藤、裏白羽二重にて仕立てしを葛袴又は葛布といふ。

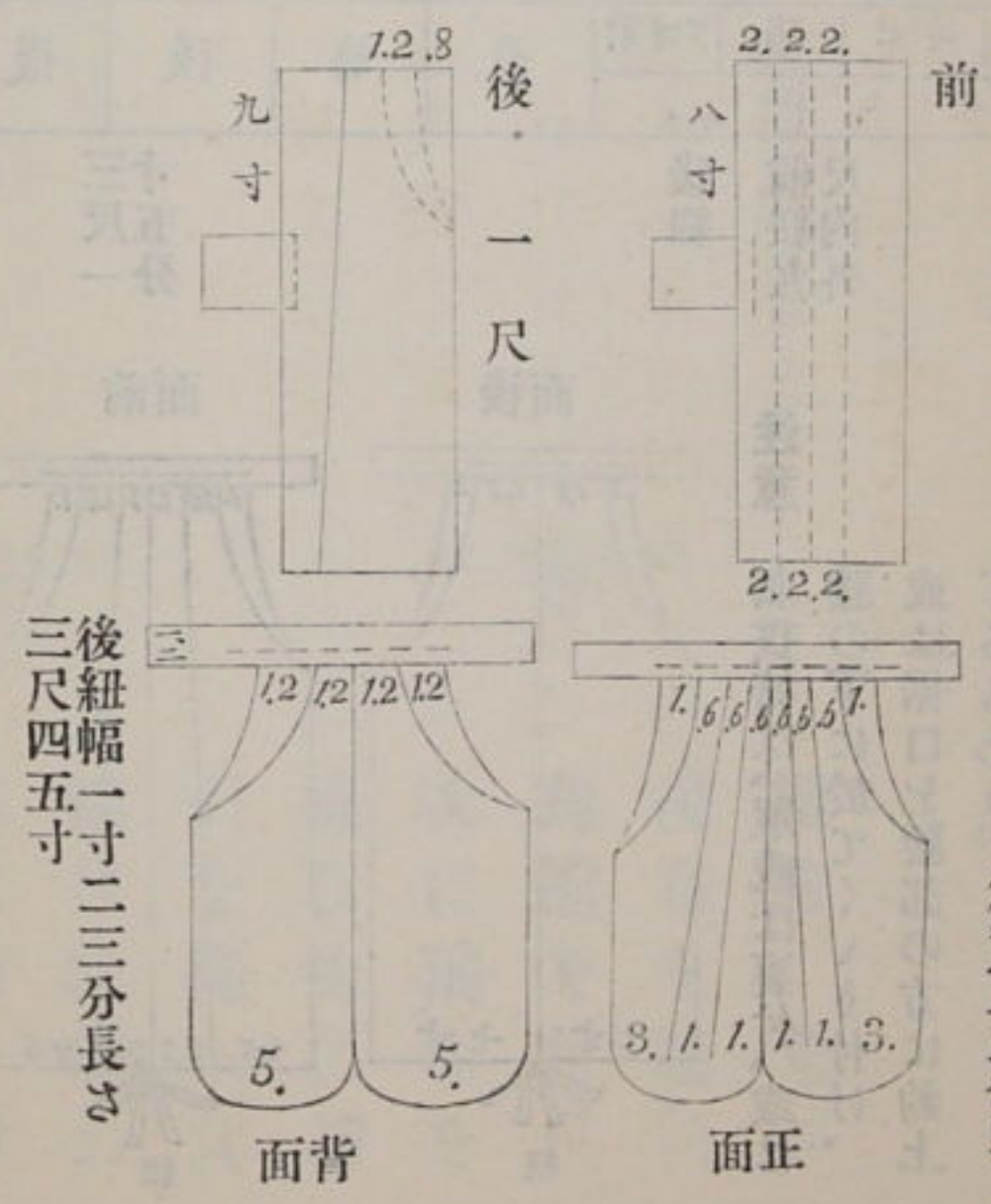
○常幅長さ九尺八寸の布を以て、六七歳の縛袴の裁方。(第七十八圖)



方裁の裏同○



縫方。袴の縫方と同様にして後を大紋腰になし、又角襠の右前の方に穴を明け、之を小便穴と云ふ、紐下一尺四寸内外、前幅五寸



五六分、後幅五寸内外、又年齢一年を増せば前後の幅及紐下も五分以上づゝ増すなり。

但裾口は表を裏に折返し、裾口に木綿綿を入れ、裏と表とを合せて之に縁を取り、其處に紐を通すなり。
縛袴は刺貫袴を略したるものなり。

○常幅の布を以て、大人の縛袴の裁方。(第八十圖)

○常幅一丈五尺八寸を以て、野袴の表の裁方。(第八十一圖)

地質は仙臺平或は緞子等を以て仕立つるなり、仙臺平なれば裾口に縐子の縁を付け、緞子なれば天鷲絨を付るなり。
縫方。通常の袴と同様にして裾口に縁を付くるの差あるのみ、此袴は昔武家の道中をなす時、又は狩に行く時着せしものなり。

○常幅長さ一丈二尺九寸を以て、細袴の裁方。(第八十二圖)

細袴は元治、應慶の頃流行し、又此頃合羽、羽織或は參材羽織、清元羽織等流行せしなり。

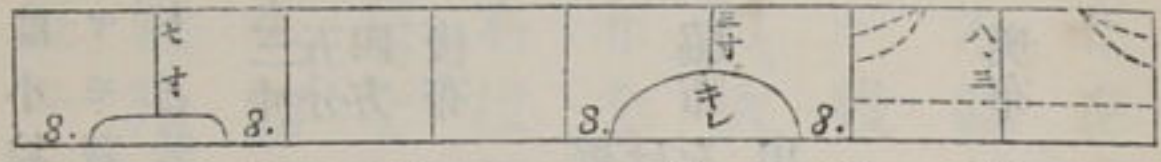
○常幅の布を以て、義經袴の裁方。(第八十三圖)

義經袴は旅行等に用ふる袴にして、小倉或は博多織等を以て製す。義經は軍中に於て之を着用せしと云ふ。

紐は別に白地の切を用ひ後紐丈四尺五寸、前九尺内外にて幅は半幅。

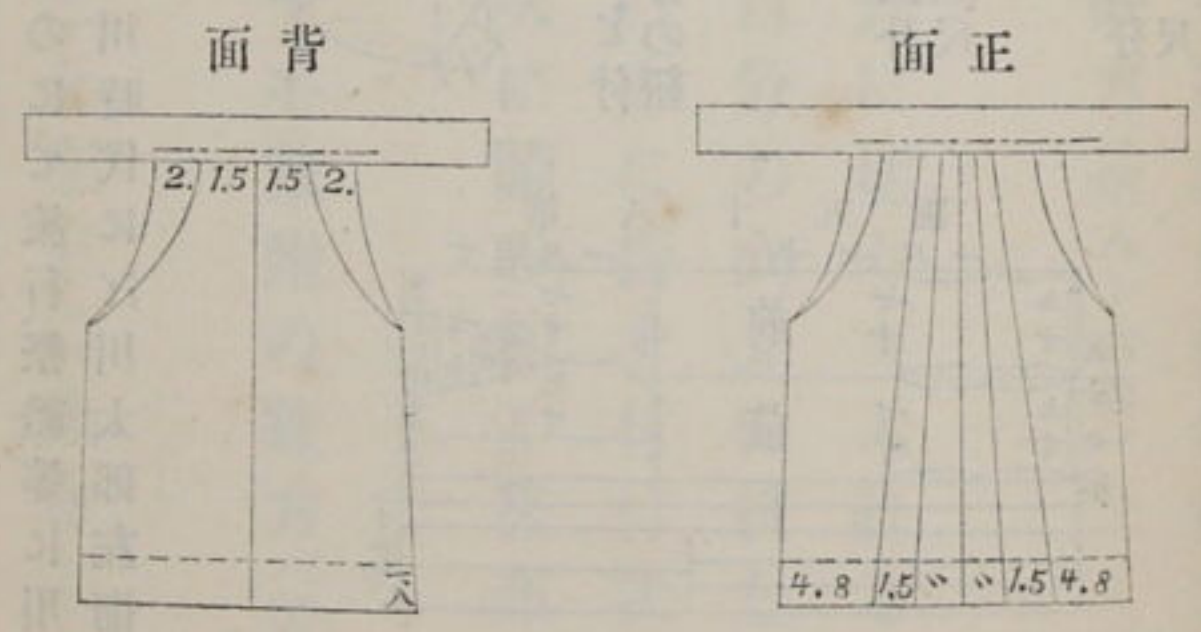
縫方。通常の袴と同様、稜は後を大紋腰になし、平打の紐を以て二目落しに飾縫をなす、腰の紐付の處は、白の太白絲を二本にして、女袴の様に前後に飾縫をなす、其他は通常の袴と同様なり。後腰幅七寸、前腰幅八寸、丈に前後の差を付くる時は前より後を五分長くなす。

第十八圖



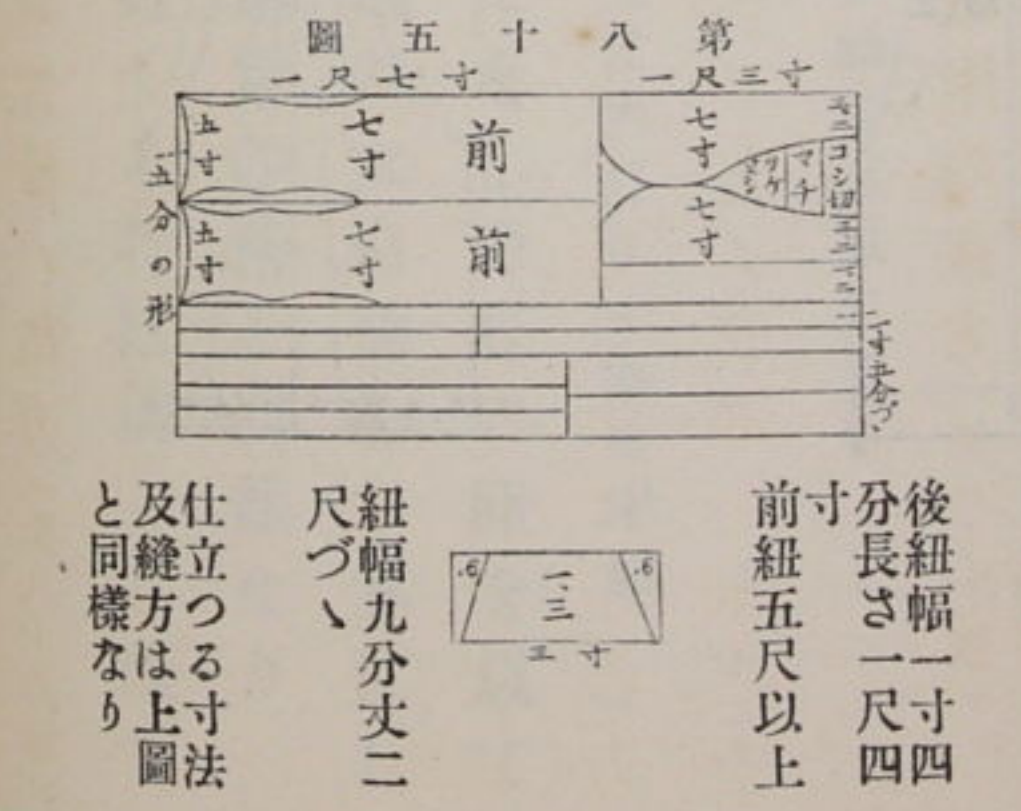
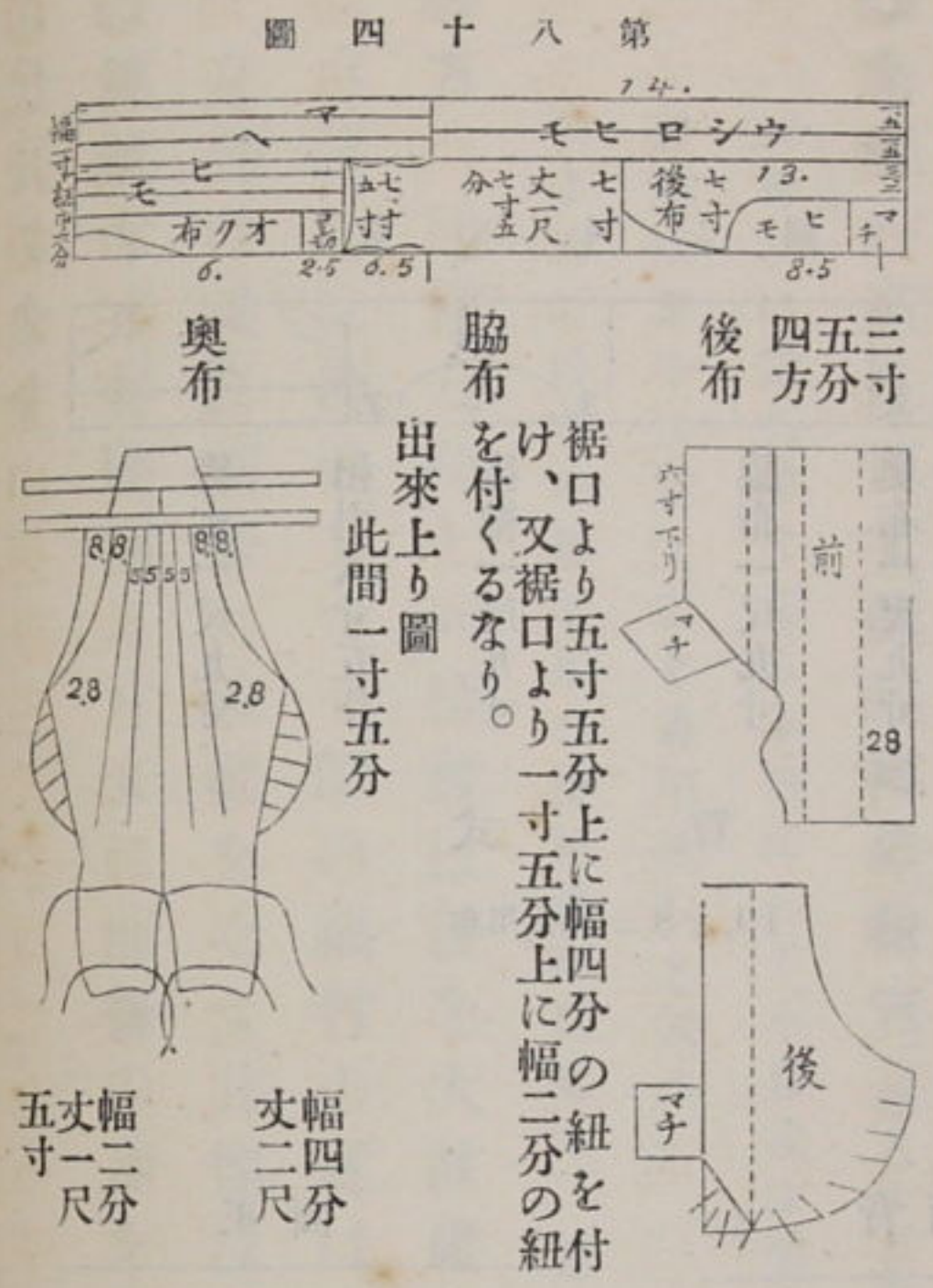
- 後丈一尺九寸
- 相引八寸五分
- 後襠一尺九寸
- 脇布一尺九寸
- 奥布一尺九寸

算式
 $19 \times 8 = 152$, 用布



○常幅九尺一寸を以て、七つ子の裁付袴の裁方。(第八十四圖)

裁付袴は小袴と脚袴とを續けて作りしものにて旅行、祭禮等に用ふるものなり、又シヤモ裁付と云ふものもあり、之は徳川時代に江川太郎左衛門なる人の考案なりと云ふ。



○二尺幅の金巾更紗三尺を以て、七つ子裁付袴の裁方。(第八十六圖)

○常幅の布を以て、大人の裁付袴の裁方。(第八十六圖)

地質は縞木綿、縹子、緞子、羅紗、吳羅(呂)。

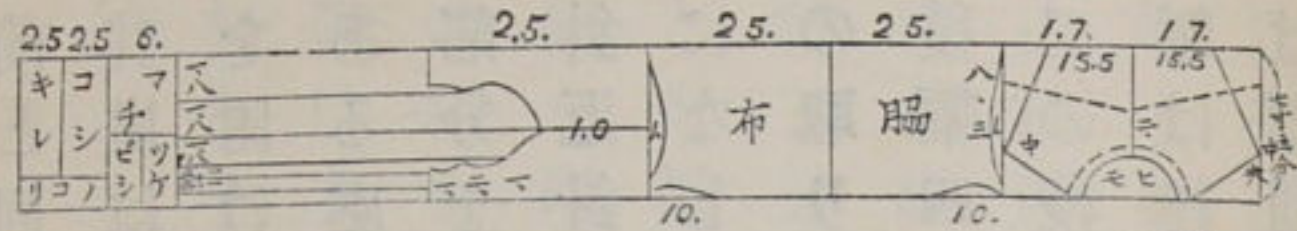
縫方。第一投を紵け、(但半紙を幅四分に切りて入れる)次に後に襠を縫付け、次に脊を縫ひ、其縫目は自分の向ふに折を付け、次に脇布と奥布を縫付け、其縫目は奥布の方に折を付け、次に左の方のみ縫ひ、右は縫はずして明け置き、次に圖の如く後布と前とを縫ひ、次に稜を取るなり。

○常幅一丈四尺五寸の布を以て、シヤモ裁附の裁方。(第八十七圖)

○シヤモ裁附の縫方。

第一に半紙をもみて幅四分に切り、之を左右の後布の投に糊にて張り付け、次に其の投を二分五厘づゝ三つ折りになして紵付

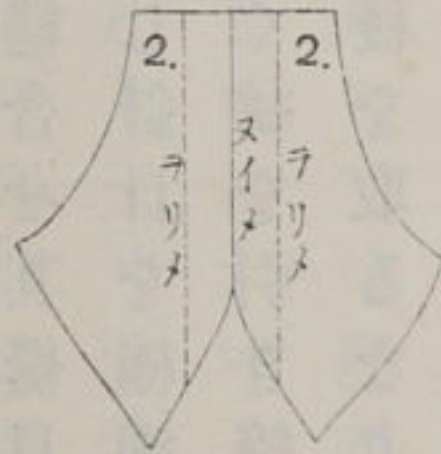
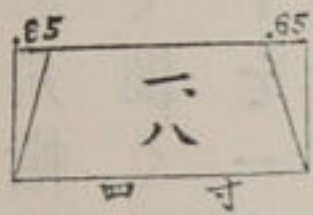
圖 七 十 八 第



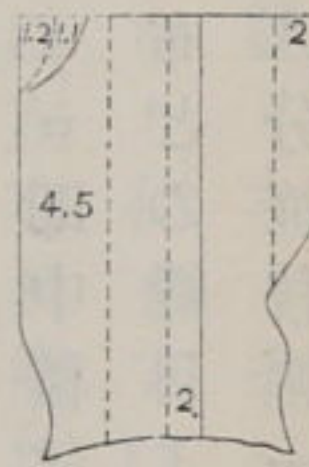
五此分間

算式
 後布丈 布數 $17, \times 2 = 34,$
 脇丈 布數 $25, \times 3 = 75,$
 腰切 紐丈 $75, + 34, + 6, + 25, = 140,$
 腰切 $140, + 5, = 145,$

板腰



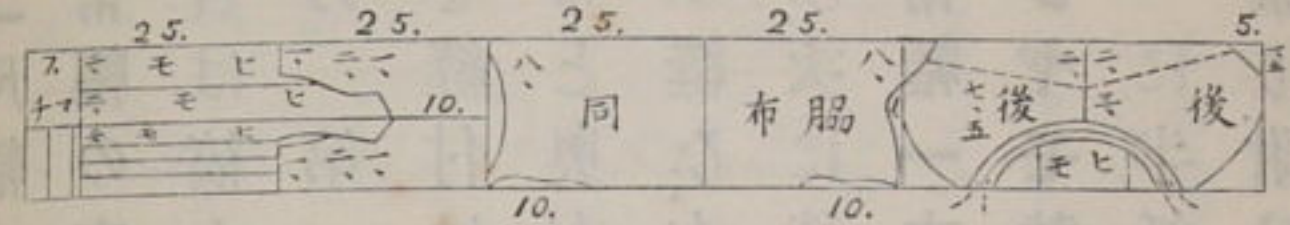
稜布



稜の取り方

一、次に後布のフトコロを縫ひ、其縫目は普通の着物の脊と同様に返し、次に後布の斜に裁ち落としある所より、上に角襠を縫附け、其縫目は後布の方に返し、次に前の奥布と脇布とを出し、各真直の方を揃へて縫合せ、其縫目は奥布の方に返して伏縫をなし、次に前のフトコロを縫ひ、其縫

圖 六 十 八 第



腰切

布奥

八後寸づゝ一尺式

付菱二分

付菱二分

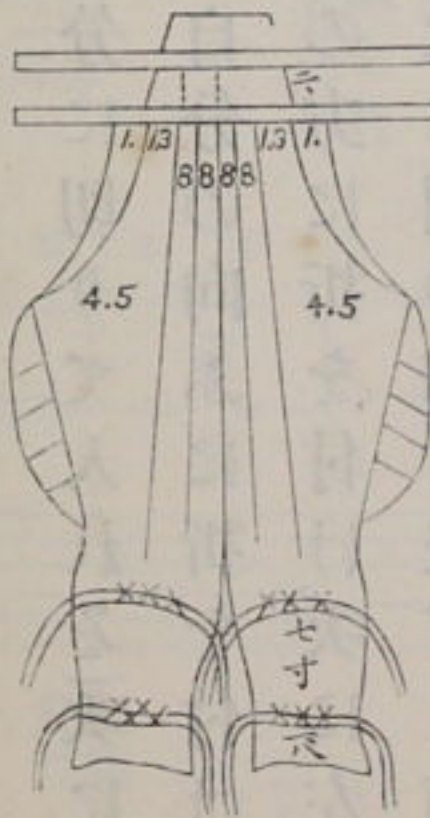
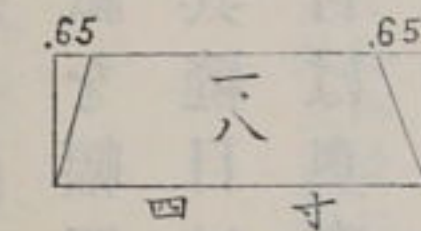
算

$18, \times 2 = 36,$

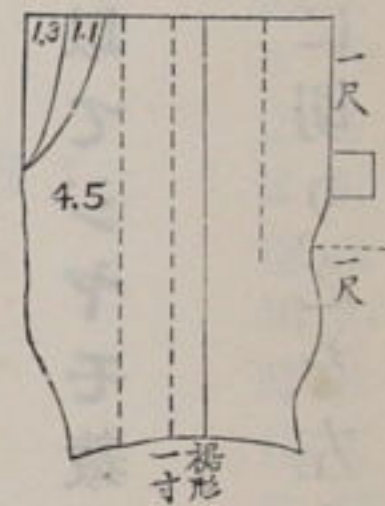
脇布 $25, \times 3 = 75,$

紐襠 $36, + 75, + 25, + 7, = 143,$ 用布

一脚絆の紐は、幅四分丈二尺八寸を二本、幅二分丈一尺八寸を二本、其他の紐は袴と同じ。



前



裾形



一尺二寸

目を前と同様に返し、次に角襠を左の方だけ縫付け、右の方は明けて、其處は三つ折にして細く紵付け置き、次に前の裾口を揃へて襠を付け、此止りより下を一寸縫ひ、それより上を後布の斜に裁ちある處まで脇布を縫合せ、其縫目は前布の方に返し、次に脚袴の部分をも三つ折になし、針目を極細かに縫ひ、二針三針縫ひては、一針返針をなし、少しく糸を引き締め、次に裾口も其通り三つ折縫になし、次に前後に稜を取るなり。

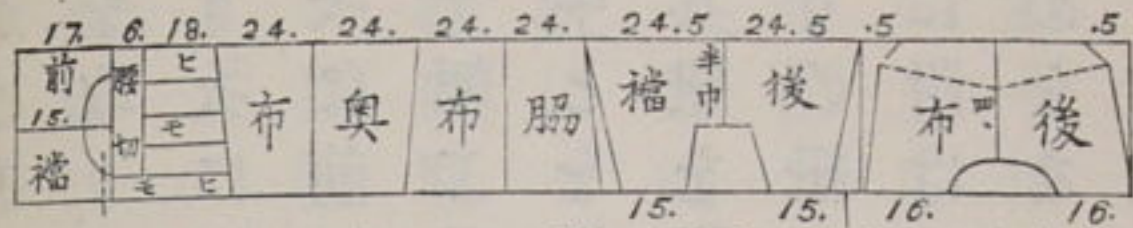
○稜の取り方。

一の稜幅四寸五分、フトコロ即中稜はフトコロの縫目より二寸取る、二の稜は奥布と脇布との縫目より脇布の方に二寸取る。寄稜幅は紐附の處にて八分、笹稜幅一寸一分、前腰幅八寸。後布は標通りに折を付け、脊と反對になし、上より四五寸の間、襠

をかけ、次に前脇稜、フトコロ及二の稜を寸法通りに折り、次に寄稜を取り、次に襠を掛け置くなり、次に前後の紐を紵け、之に壓を置き、次に腰板を立つるなり、仕立方は普通の袴と同様になすべし、次に前紐を附くるには、左右共裾口より一寸八分上りたる所にて幅二分、丈一尺八寸の紐を當て、脚袴の布幅の真中と、紐丈の真中とを揃へて、中央を凡そ二寸程の間、片千鳥になして付け、次に其紐を附けたる處より、更に六寸上りたる所に、幅四分、丈二尺八寸の紐を當て、中央を凡そ三寸五分程の間、片千鳥になして丈夫に付け、次に相引の止り、及脚袴の部分を一寸縫ひし止りに門止めをなすなり。

○徳川時代の十番馬乗袴の裁方。(第八十八圖)

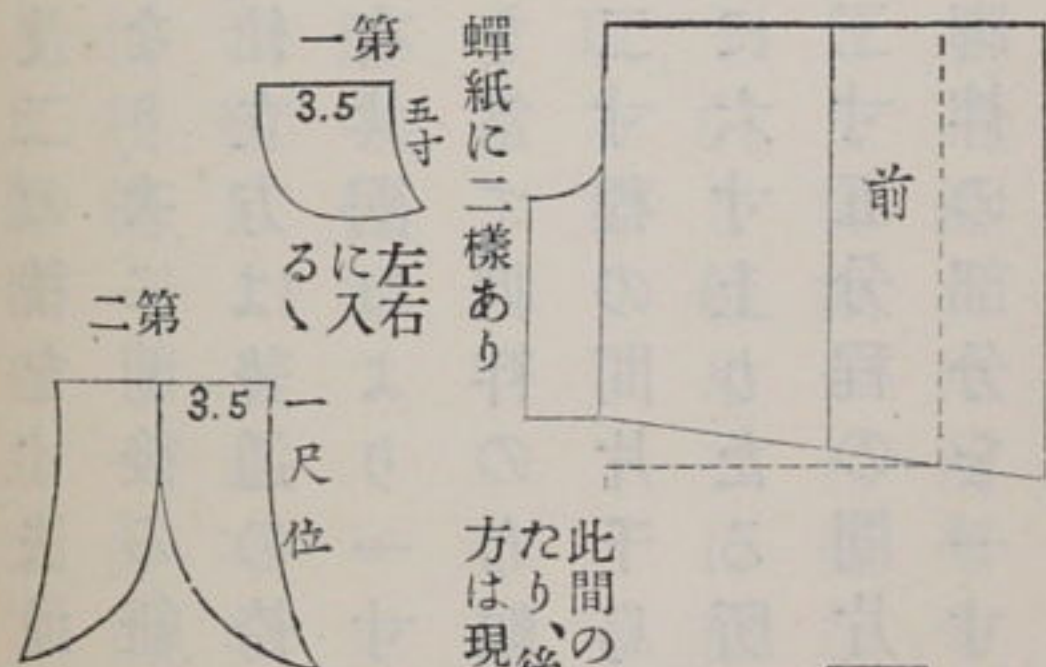
第八十八圖



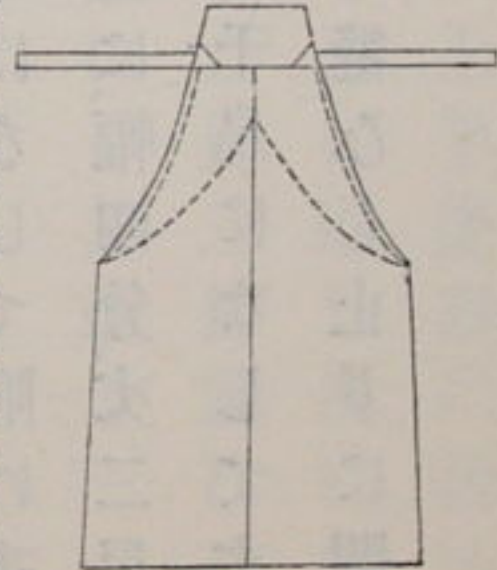
見裏後丈二尺
相引一寸五分
後襠二尺四分
五五分
見裏
脇布
二尺四寸
奥布
二尺四寸
二尺四寸
附菱

算式

後丈 25, × 8 = 200, 200, + 18, + 6, + 17, = 241,
紐 腰切 前襠
241, - 5, = 236, 用布 裁出し



此間の稜は三分せるを並と定めたり、後稜は六分交へ、其他の縫方は現今のと異なることなし。

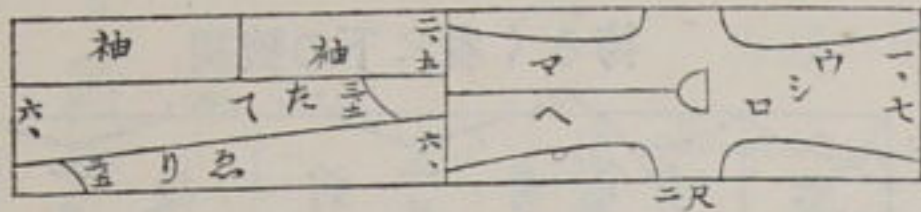


投は二三分繰落し幅二分に三つ折に拵付くるなり

蟬紙は厚き紙を後布の投の處に合せて裁ち、裏の方に合せて裁ち、裏の處に出る處に表の切を貼付け、紙より一分程大きく裁ちて紙の裏に貼付け、腰紙を付くる際に蟬紙を付くるなり。

○幅一尺八寸、長さ九尺八寸を以て關腋の裁方及積方。(第九十圖)

第九十圖

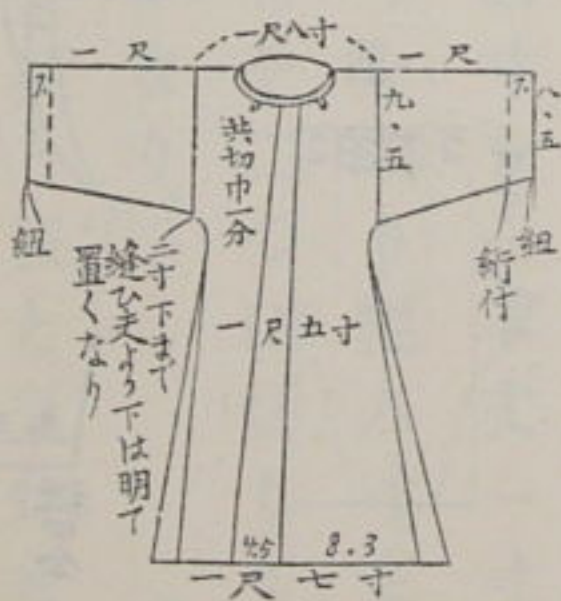
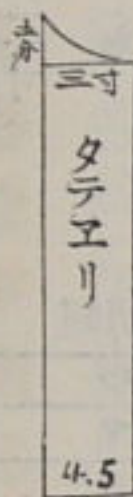


衿肩二寸五分
腮二寸八分
衿は別に二尺一
寸二寸丈二尺一
紐は共切にて
幅四寸丈四尺
以上は著物よ
身丈は著物よ
三寸は乃脊縫
寸つめ、脊縫
はなし。

算式

9.5 × 4 = 38, 30, × 2 = 60,
38, + 60, = 98, 用布

衿と紐は別切に用ふ

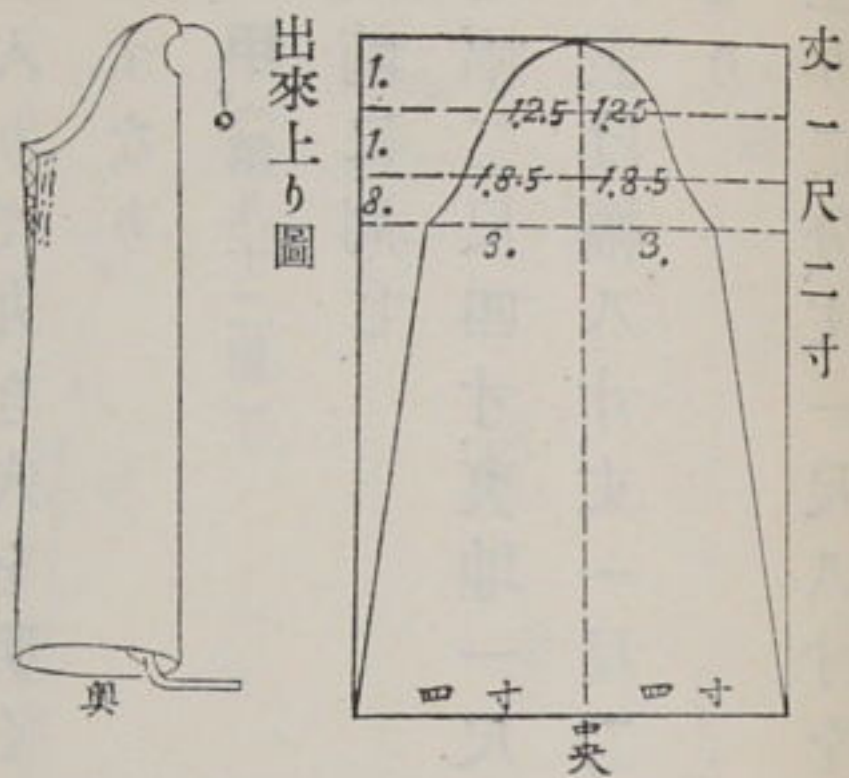


袍關腋は、表着とも云ふ、神代より始る。
關腋は、上官は羽二重、下官は木綿を用ひしと云ふ、

衿丈二尺出来、幅は山にて七分、衿先にて五分にして、木綿の心を入れるなり。

丸き所、及豎の眞直なる所にて二寸の間を縫合せ、それより裾口の方も裏表を縫合せ、(但裾口を縫ふとき、左は幅の中央に乳を付け、右は紐を付くるなり)次に外側即後になる布にて内側を挟み、

第十九圖 方裁の甲手



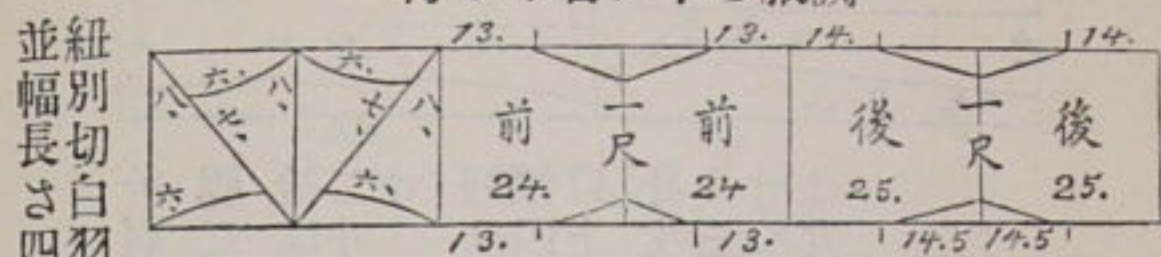
地質は黒木綿。用布常幅二尺四寸、表(但裏も同じ)の裁方は、用布の中より八寸幅、丈一尺二寸を二枚、幅二分、丈二尺四寸を一本、丈一寸上りの乳二つを取り、幅八寸、丈二尺四寸の布を二つに切りて、圖の如く裁つなり。

縫方。裏と表とを合せ、口先の

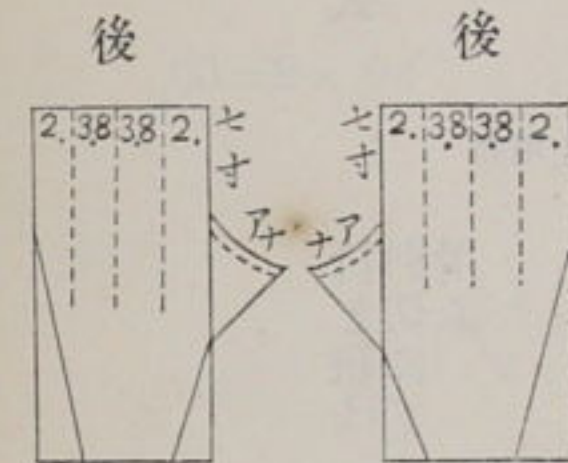
〇 袷手甲 (第九十一圖)

(2) 第十九圖

袴るく着に下の腋關



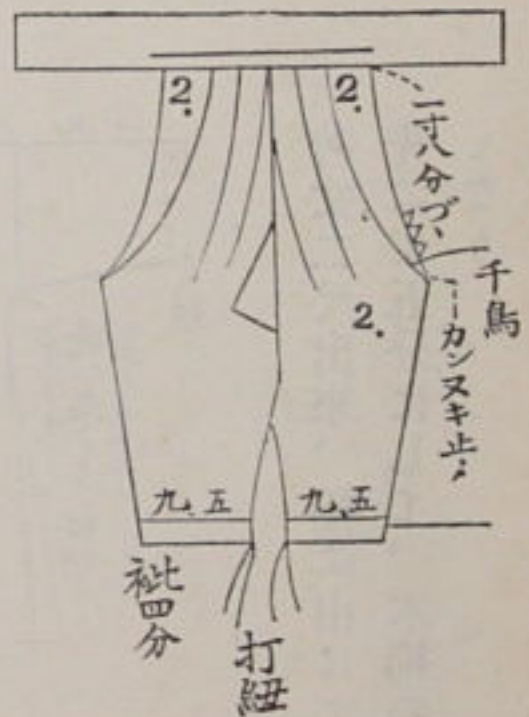
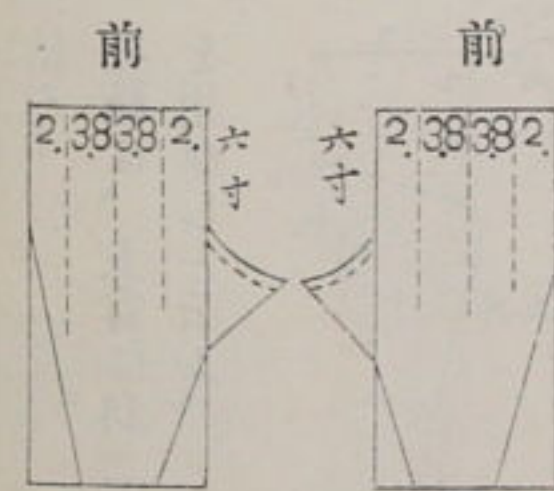
算式
 $25 \times 4 = 100$, $100 + 12 = 112$, 用布
 尺二寸幅一



寸八尺四重二羽切紐

モ	ヒ	ロ	シ	ウ
モ	ヒ	ヘ	マ	
モ	ヒ	ヘ	マ	

圖面正り上來出



裾廻し水
 色の四寸幅
 の縁を附
 の縁を附

四つ縫にす、其時引返す際の便として、裏一枚離し置き、後に紵付け、それより二寸縫ひし所の外側に、鞋を三個付け、内側に鞋掛を付くるなり、次に先の突出たる山の裏表の間より、丈五寸の細き紐を付け、其先きには釦を付け置きなり、而して突出たる山より五六分入りて丸き穴を明くるなり、二寸明け置きし止りには門止をなすなり。

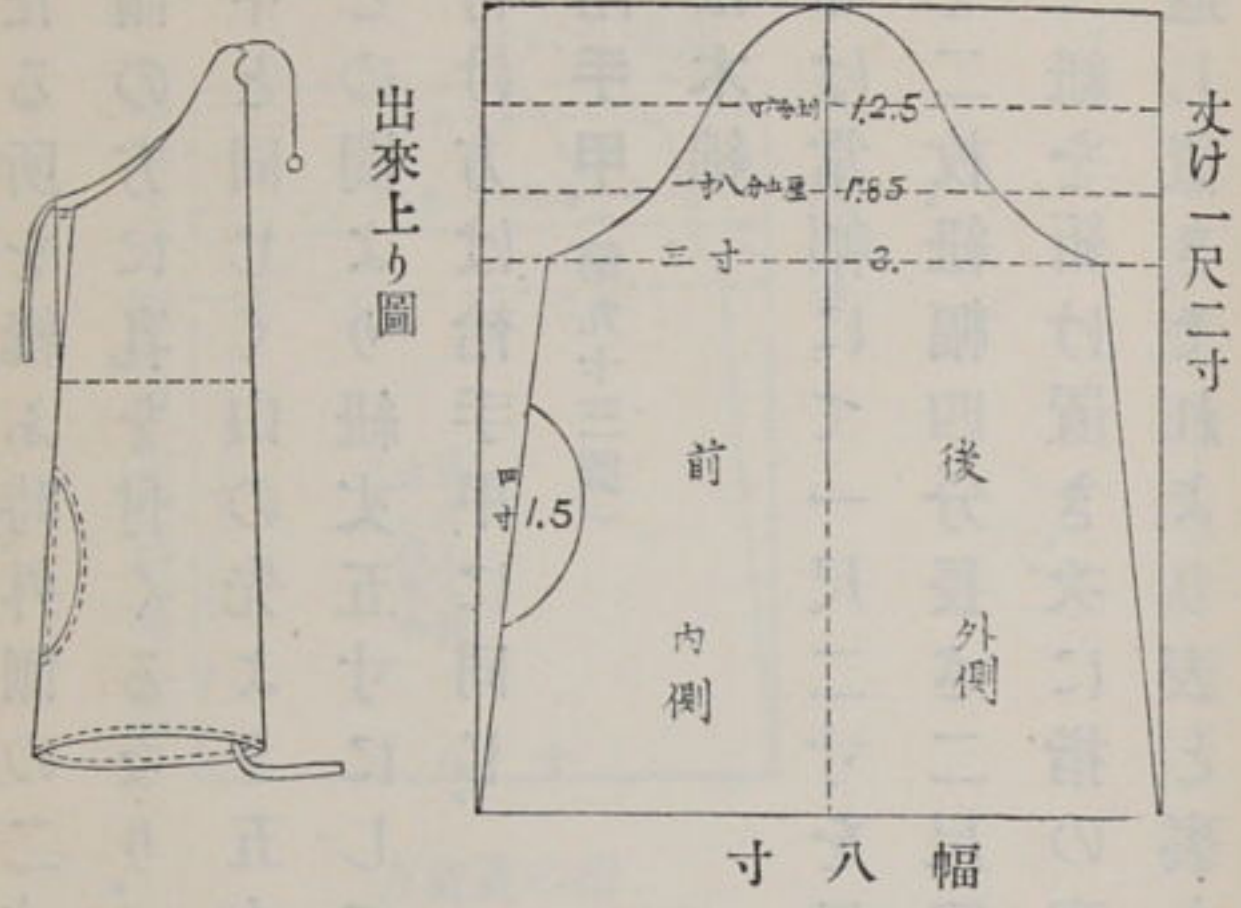
○單手甲。(第九十二圖)

地質は前に同じ。

表地常幅二尺四寸、裏地一尺二寸を要す。
裁方。表は幅八寸、丈一尺二寸を二枚、裏は幅八寸丈六寸を二枚取るなり。
紐幅上り二分、丈一尺八寸を二本と、二尺四寸一本と、乳三つとを

要す。(但紐は幅の落し布より取るなり)

第九十二圖
單手甲の裁方



縫方。裏表合せて眞直に切りたる處を二寸と、先の突出たる所とを縫ひて引返し、裏のあるだけ、外側にて内側を挟みて縫ふ、但裏切は下を二分位に裏の方に折り置く、それより下を三つ折にして小さく縫ひ繰りたる處も三つ折になす、それより前に裏を二分程折りたる所を表に縫目を小さく出して縫付くるなり、但先きに二寸の處及

突出たる所を縫ふ時、外側の二寸角の處に一尺八寸の紐を縫付け、内側の方に乳を付くるなり。
 袷手甲と同じく山の先より五六分入りて丸き穴を明け、次に裏と表との間より紐丈五寸にして其先に釦を付け置くなり、紐及乳の付け方は袷手甲に同じ。

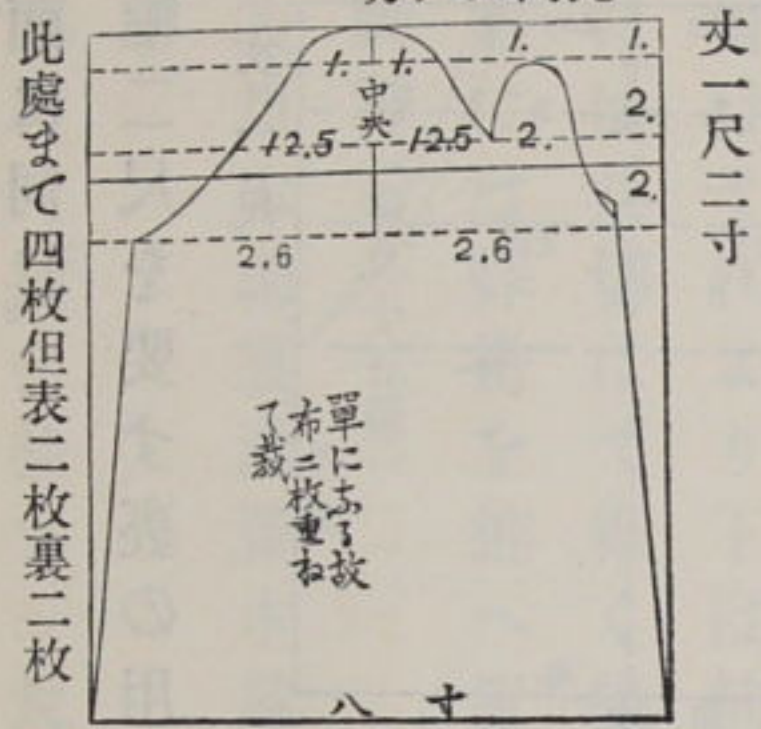
○指附手甲。(第九十三圖)

地質は木綿。

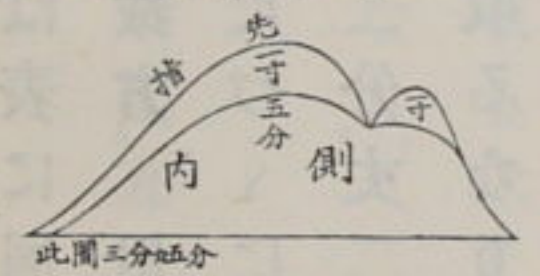
表用布は常幅にて一尺二寸を二枚、裏は常幅にて四寸を四枚、同八寸を二枚、紐幅四分長さ二尺四寸を一本、及乳一つとを要す。
縫方。 紐を紵け置き、次に指の裏布を二枚づゝ合せ、内側のみ縫ひ、引返し置き、それより表と裏との八寸のものにて、前に縫ひたる指の裏布の指先の方を挟みて、縫ひながら眞直の方を二寸縫

ひ、其下を外側にて内側を挟みて四つ縫にす、其他袷手甲と縫方同じ、但二寸の處即馬乘には鞋を三個付け、馬乗の止りには門止をなす。

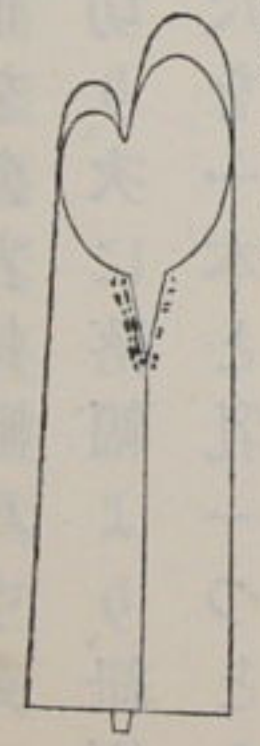
圖三十九第
 方裁の甲手付指
 分六五間此



方裁裏の指



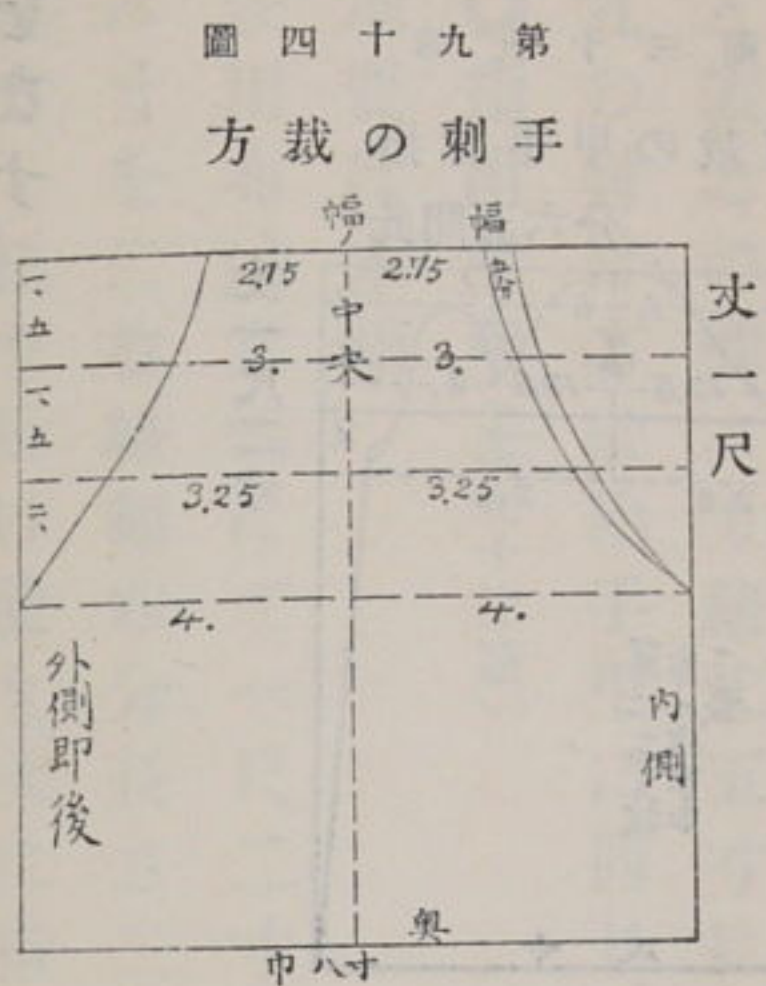
出來上り圖



○手刺。(第九十四圖)

地質は前に同じ。

表は常幅二尺を要す、裏の用布は表に同じ、



第九十四圖
手刺の裁方

寸の間裏表を合せ、其時鞆を三枚入れて返縫になす、鞆は口先より縫代だけ内方に入れて付くべし、次ぎに口先に縁を取るな

裁方。用布を裏表共幅八寸、丈一尺づゝに切り、次に落幅より、紐幅二分、丈二尺を一本と乳一つとを取るなり、但紐は布幅の裁落しより取るなり。

縫方。口先の方にて、外側になる方、即合代なき方を口先より丈二

り。

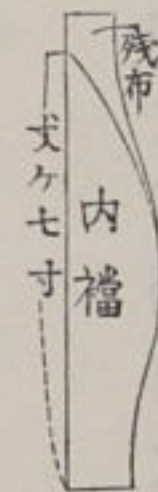
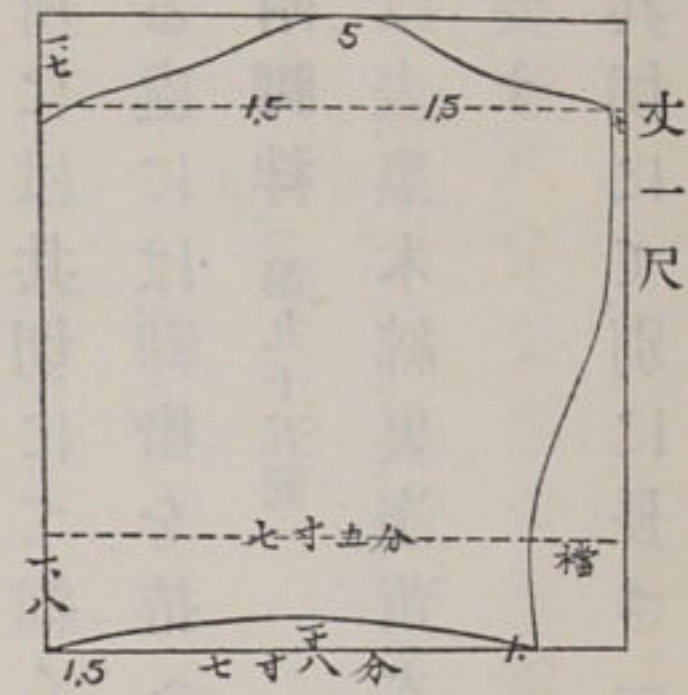
鞆を縫付くる時、裏を三分だけ多く縫込む、之れ足袋の鞆の如く表が裏に折り返る故なり、次に内側も二寸縫ひ、次に裾口の方も縫ふなり、其時幅の山より内側に寄りたる所に、右は紐を付け、左に乳を付け、それより下は、前の手甲と同じく四つ縫にすべし、口明の所には共切にて細く縁を取るべく、内側になる方の二寸明きたる處には、鞆掛を拵へ置くなり。

○山附脚絆。(第九十五圖)

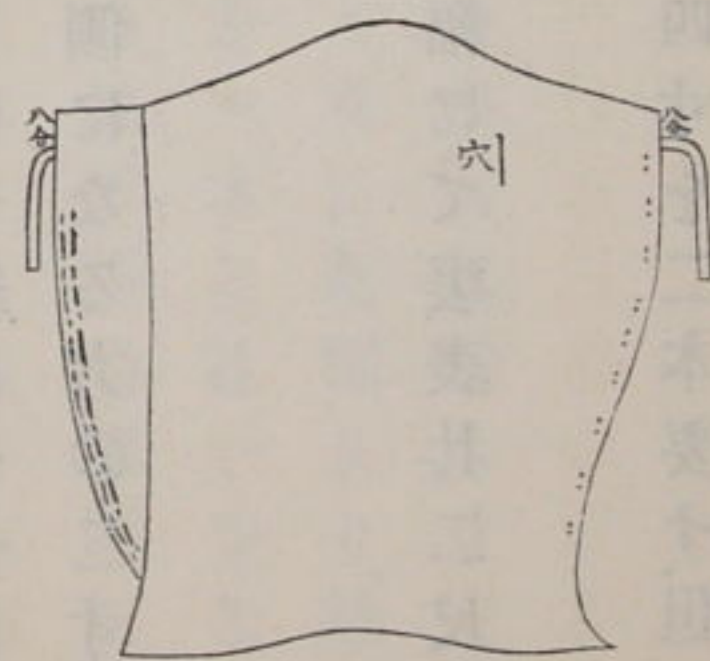
地質は表、黒木綿、裏、淺黄木綿にて用布は常幅にて裏表共二尺づゝを要す。

紐は共切にて、別に長さ一尺九寸を二本と、四寸を二本要す、但幅上り五六分とす。

圖五十九第
方裁の袴脚附山



圖り上來出



縫方。紐を残らず紵付け置く、(但一端は裁目のまゝになし置くなり)襠切の眞直の所に、上より八分下りて短き紐の紵目を、下に向けて襠の上の横と、豎との眞直の所を、裏表揃へて紐を挟みて縫ひ、引返して表を出し置き、次に裏表の身を出し、上の方と裾口

とを縫ひ、(但山の所即上の方は絲を少し引つる様になす)次に外襠即身の形の付きたる所を、裏表共に裾口より一寸八分上りたる所までに丈を三分程縫締め置くなり。

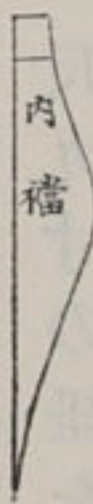
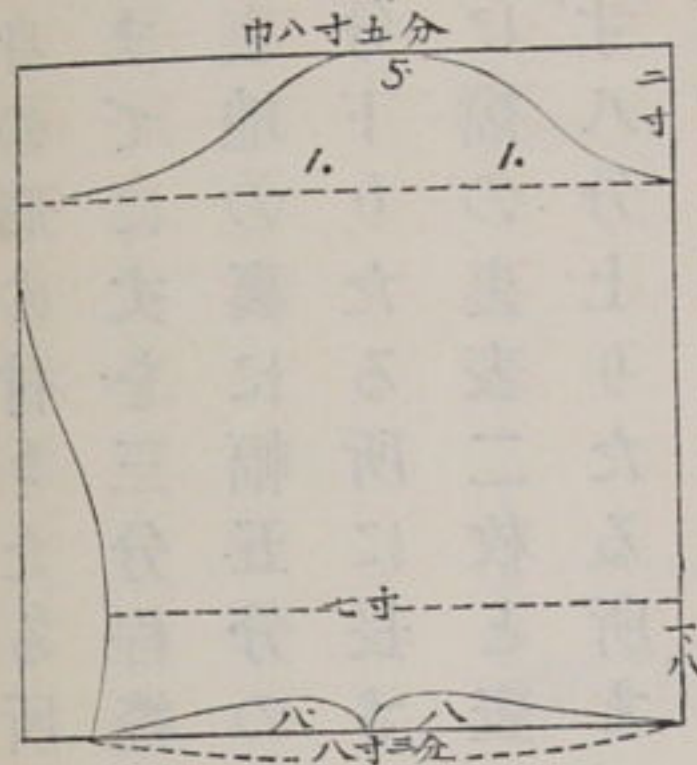
次に裏地の裏に幅五分の切を當て之を返縫になし、(但此時上より八分下りたる所に長さ一尺九寸の紐を紵目を下にして縫付く)次に襠の裏表二枚と表身一枚と、都合三枚にて内襠の裾口より一寸八分上りたる所まで縫付け、折は身の方に返し、残りの裏身を紵付く、次に鞆を付くるなり。

鞆を付くるには長き紐を付けたる止りより一寸五分下り、裾口より一寸八分上りたる所までの間に六枚付け、次に紐の短き方には鞆を掛くる絲を付くるなり、但鞆は奇數に付くるなり。穴を明くるには、長き紐の方にて幅二寸八分入りて、紐を付けた

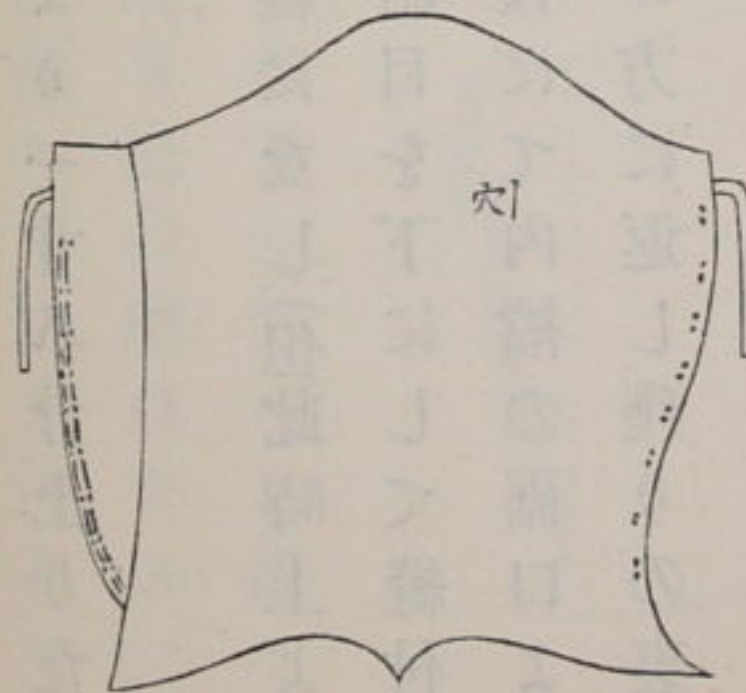
る所と同じ高さの所に豎に明くるなり、次に穴の兩端に閉止を
なすべし。

注意 脚絆を裁つ時は、着する人の足の寸法を取り、それに縫代及合代として八
分を加へて裁つべし。

第九十六圖 鳥足脚絆の裁方



鳥足脚絆の出來上り圖



○鳥足脚絆。(第九十六圖)

地質は前に同じ。

表の用布は常幅にて二尺一寸、裏は表と同じ、別に共切にて出來
上り幅六分、丈一尺九寸を二本と、四寸のもの二本とを要す。

縫方。山附とほゞ同じ、されば異なりたるところのみを記さん、
短き紐の先を幅二分上りになる様に拵付くべし。

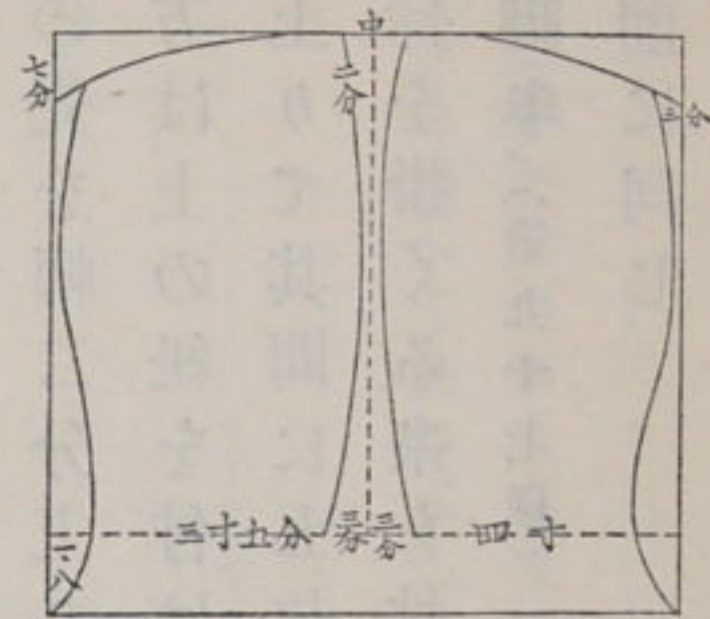
鞋の付方は、上の紐を付けたる所より一寸五分下り、裾口より一
寸八分上りて其間に五枚或は七枚付け、紐の短き方は、幅七八分
入りて鞋を掛くる糸を付くるなり。

○横地脚半。(第九十七圖)

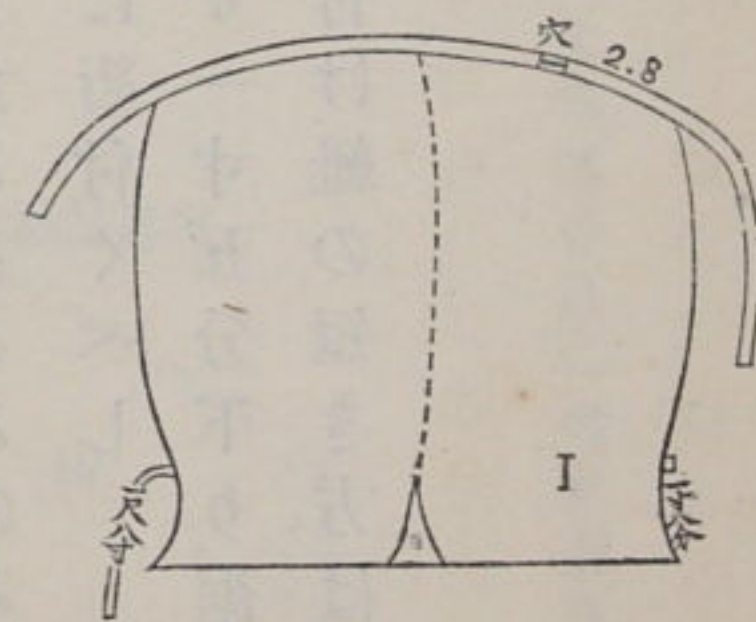
地質は前に同じ。

表の用布は常幅にて二尺、紐切は共にて上り五六分にて丈二尺

第九十七圖
横地脚袴の裁方



横地脚袴の出來上り圖



八寸を二本と、幅上り二分二つ折にて七八分の乳を二つと、二分幅丈一尺八寸二本とを要す。但單縫方。先づ眞中央の印を縫合せ、折は幅狭き方に返し、針目を五分位にして、紵付け、次に左右の端を細く三つ折になし、針目を細

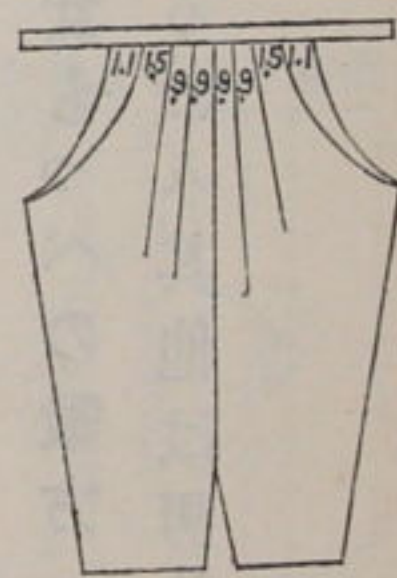
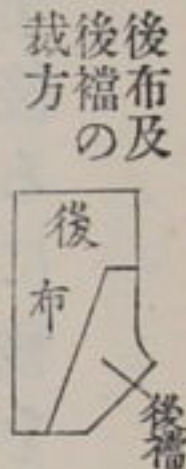
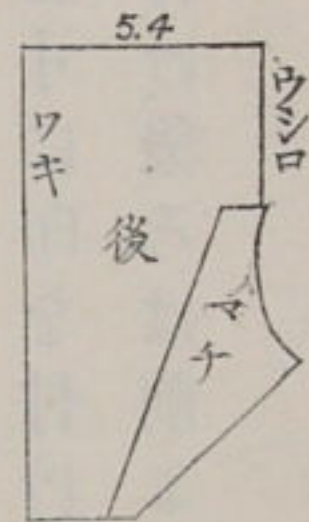
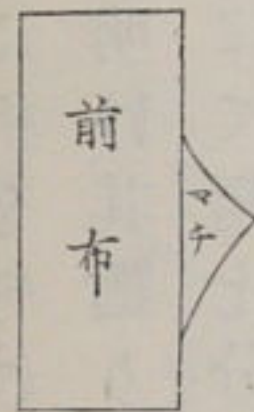
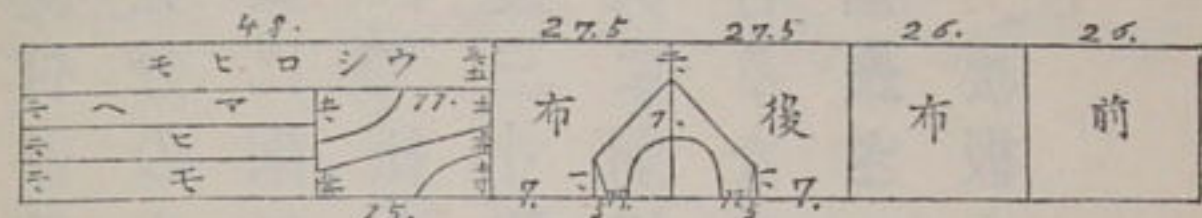
かに縫ひ、二針三針縫ひては一針返し、絲を少しく引締めて縫ひ、次に紐切を出し、身幅の廣き方に三四寸出して表に縫付け、裏にて紵付け、次に裾の方は幅の狭き方に幅二分の乳を裾口より一寸八分上りて付け、廣き方には幅二分丈一尺八寸の紐を裾口より一寸八分上りて付く、次に幅の狭き方にて端より幅一寸八分入りたる所にて、乳を付けたる所と同じ所に豎に穴を明け、上方は長き紐を付けたる上より二寸七分入りたる所にて、紐幅の中央に横に明くるなり。

○常幅一丈七尺四寸五分の布を以て、男もつべの裁方。(第九十八圖)縫方。第一投の裁目に、幅三分位の紙を貼りて三つ折になし、針目を三分位に紵付け、次に後襠を縫付け、縫目は襠の方に返し、隠襠を懸け、次に脇布に奥布を縫付け、奥布の方に折を付け、次に上

丈は幅の八位より十位までとす。
 地質は木綿又は縮緬。メリンス等を用ふ。
縫方。 先つ丈の上下の端を三つ折になして紵付け置き、幅の両端を二筋三筋グシ縫になし、次に丈の下方の乳の付きたる方に圖の如くハタキを縫置くなり。但ハタキ糸は二筋にして白色のものを用ふ。
 乳は出来上り丈六寸にして幅は四つ割なり。
乳の折方。
 第一丈の両端を折り、幅を一ばいになし、縫目は裏幅の中央になる様にす、されは乳幅の両端は輪になるなり。
乳の付方。
 乳の丈を二つに折り、裏表共九字、セイメイ、叶等を縫付け置き、丈

○ 幟を仕立つる寸法。(第百圖)

圖 九 十 九 第



女モツは昔無地なはしが今は縞を用ふることもあり

の両端には並の乳を二つ付け、其間は乳の數定らされども凡そ八寸位づゝ間を置きて付くるなり。

上の幅の方は圖の如く、右の端に九字の縫ひある乳と、普通の乳とを列べて付け、中央にはセイメイを付け、左の端には叶と普通の乳とを列べて付くるなり。但叶を左の端にす。

乳を二つ列べて付くるときは、兩方の乳に小さく一針づゝ掛け置くなり。

置くなり。

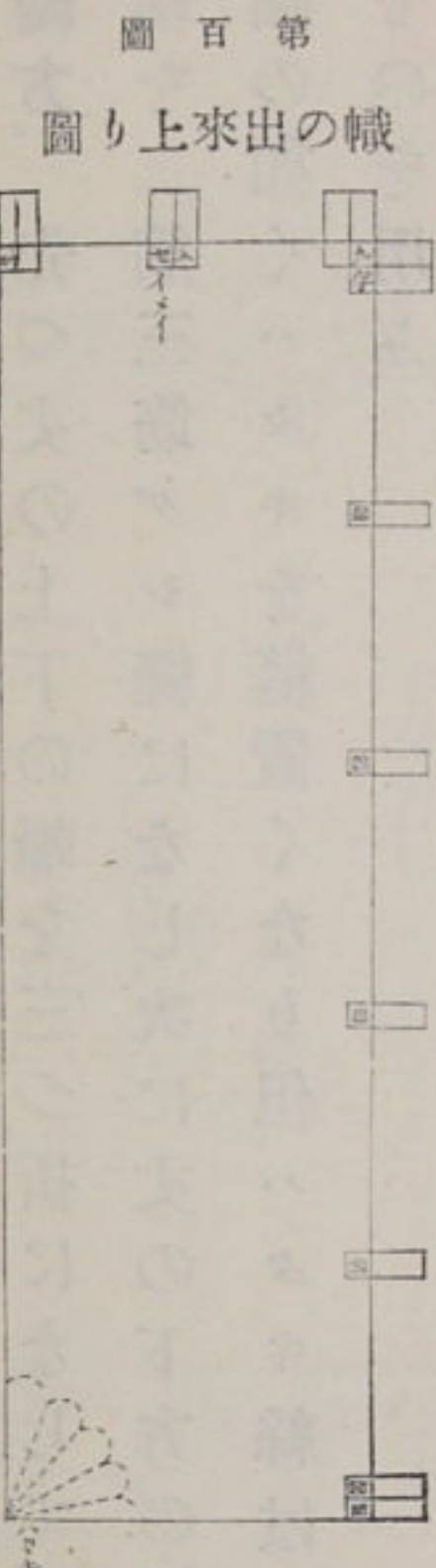
大なる幟の時は

乳の丈七寸出來

上り位になし、幅

は並幅三つ折に切りたるものを用ふるなり。

○國旗。



置くなり。
大なる幟の時は
乳の丈七寸出來
上り位になし、幅

地質は、キヤリコ、唐縮緬、縮緬等を用ふるを常とす。

旗の大きさは隨意なり、されども中の日の丸は定まれり、即旗の幅の二分の一に縫代を加へたるものとす、例へば幅二尺なる時は日の丸は出來上り一尺なり。

縫方。第一白布の一方の縁を三つ折り、紵になし、一方は初め三分位に折り、それより一寸位に折返し、紵付くるなり、其處には竿を通すなり、それより赤き布を丸く切り、其廻を小針に縫目を縫縮め、縫代だけ裏に返る様にし、白の真中と、赤の中心とを合せ、白絲にて其赤の廻りを真都利付け、次に白の切を縫代だけ残して切り取り、其後を二つに折り、赤絲にて真都利付くるなり。前に一寸に紵付けたる所には細き紐を付け、置くを良とす、紐にて竿に結び付くるなり。

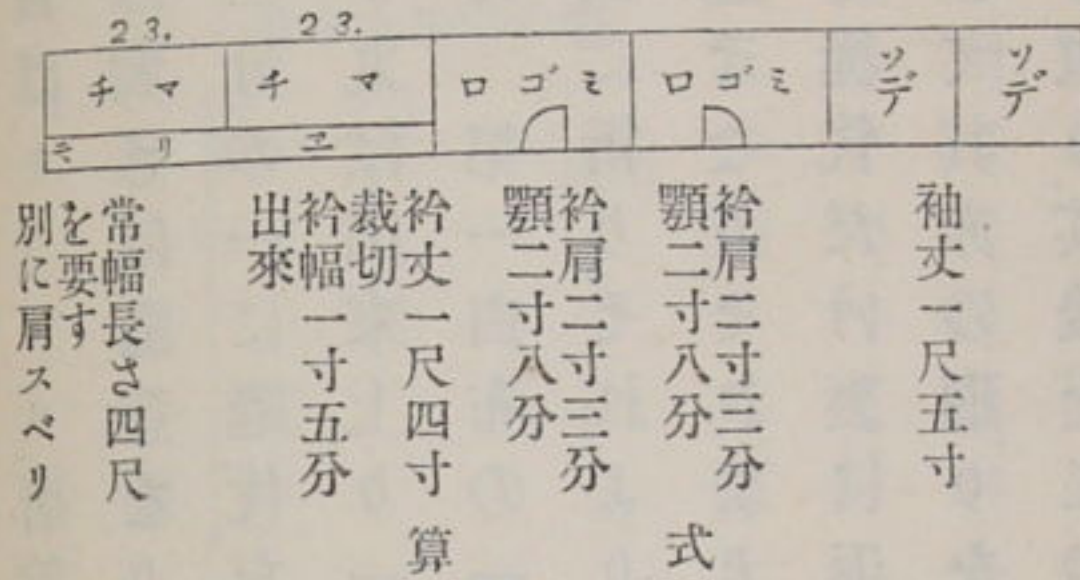
○常幅の布を以て、辯護士禮服の裁方。(第百一圖)

辯護士の禮服は厚板、綾、縹子、カシメル、アルバカ、絹セール等の黒

無地を用ふるなり、衿及肩廻しの縫は縫箔屋に於て之を爲す。

積方。袖丈の四倍と身丈の六倍とを加へ、其内より袖丈の二倍即三尺を減じ、其残りに襠の縫代左右の分四寸を加へ、用布を得るなり。但身丈より袖丈の一尺五寸を減じ、之に縫代の二寸を加へて襠の丈を知るなり。
縫方。第一に袖下を縫ひ、其縫込

第百一圖



$$\begin{aligned} \text{袖} & 15, \times 4 = 60, \\ & 231, + 50, = 281, \\ & 251, + 4, = 255, \text{布用} \\ & \text{襠の縫代} \end{aligned}$$

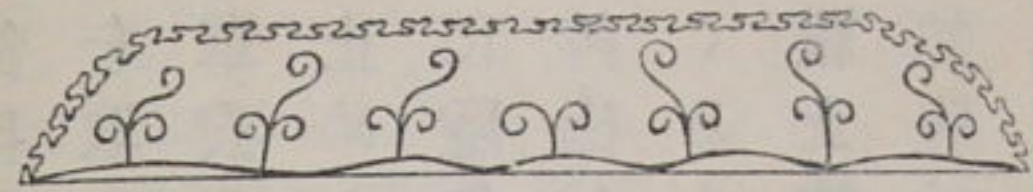
$$\begin{aligned} \text{身} & 38,5 \times 6 = 231, \\ & 281, - 30, = 251, \\ & \text{袖丈の二倍} \end{aligned}$$

の端を折りて袖に紵付け、次に袖口を幅一分位に三つ折りになして針目を二分位に紵付け、次に單物の如く脊縫をなし、次に襠に稜を取りて前後の襠を縫付け、(其縫目は身頃の方に折を付け、次に單衣の如く袖を付け)袖付の處は襠の稜を取りし所をもよく糸止めをなし、袖の縫目は袖の方に折を付け、次に胸の處は左の方に隠鈕を付くる様に(ツボンの前に)拵へ、右前は幅一寸の共切を持出して付け、此處に鈕懸をなし、次に前身頃の端と裾とを紵付くるなり。(但裾口は幅一寸位とす)

○辯護士禮服衿の圖。(第百二圖)

白の蛇腹糸を以て上圖の如く縫ひ、衿山の處は六つの花の様に縫ひ、其下部は唐草に縫ひ、衿山に縫目を付け、又衿を付くるときは木綿の心を入るるなり。

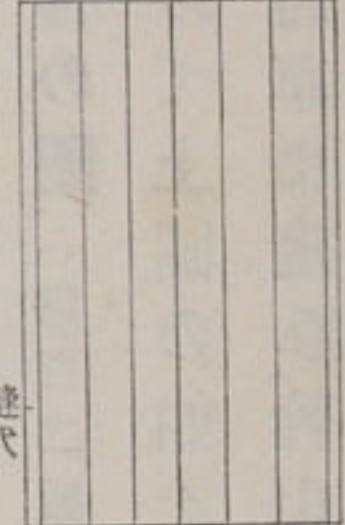
圖二百第



襦に折を付くる圖

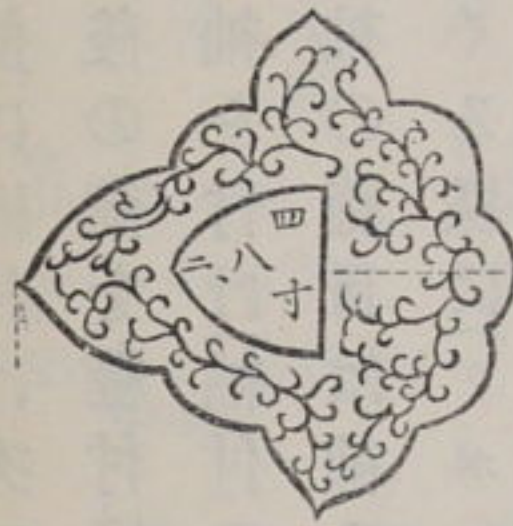
縫代

寸八七巾襦



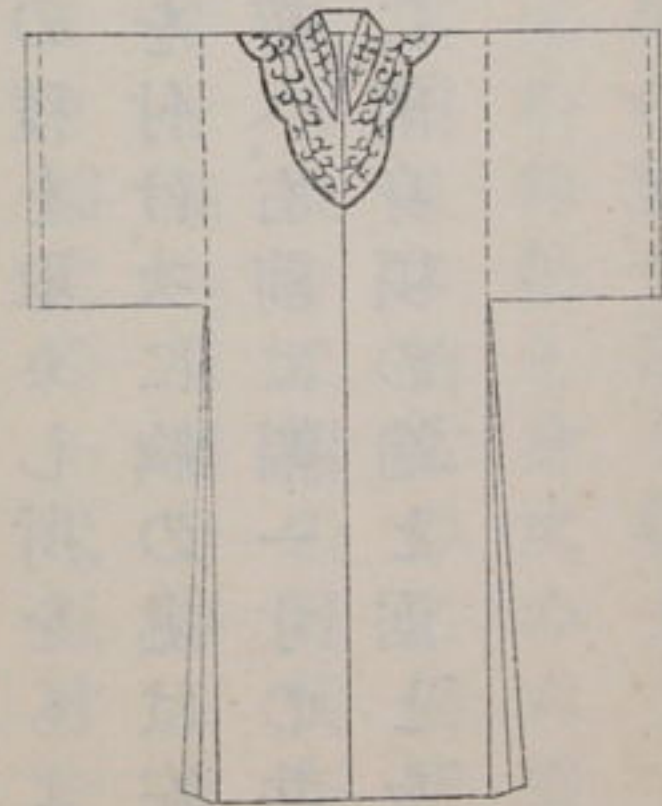
表ニ折ル 裏ニ折ル 表ニ折ル 裏ニ折ル 表ニ折ル 裏ニ折ル

肩の廻りに白の蛇腹糸を以て圖の通り縫箔をなすなり
後 三つ衿より四寸



肩幅左右に六寸
づゝ縫箔をなす
前 三つ衿より九寸

圖り上來出



仕立つる寸法。

袖丈着物より二三分長く、身丈着物と同様、身幅前後八寸或は八寸五分、行着物より一分長くす。

○辯護士帽子の裁方。(第百三圖)

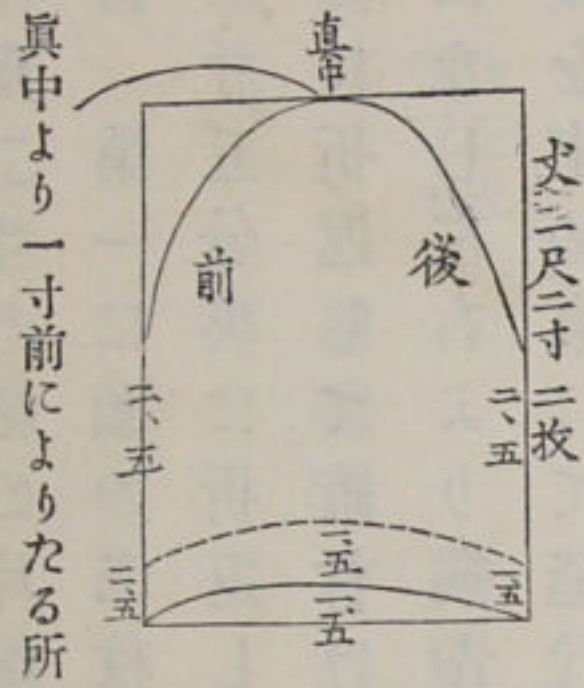
常幅丈一尺二寸を二枚、幅九分上り丈一尺二寸を二本、同幅にて一尺一寸一本、同幅にて丈三寸五分二本。

地質は厚板、アルバカ、絹セール、

カシミヤ等を用ふ。

裁方。常幅一尺二寸を二枚、幅九分上り丈一尺二寸を二本、同じ幅にて丈一尺一寸を一本、同じ幅にて丈三寸五分を二本取

圖三百第



丈二尺二寸二枚



る、一尺二寸の紐の片端を劍形に紵付くるなり。
 縫方。第一に頭の二枚の切を返縫になし、其縫目を開き、次に幅を一寸五分裏に折返し、厚紙を圖の如き形に切りて心に入れ、表を裏に折返して紵付け、次に前の真中より幅二寸五分程の所を山になし、左右より摘んで稜を取り、前より三寸程入りたる所に稜を止め、裏にて縫代の深さを摘んで一寸二三分になして稜を止め置き、次に左右の端は前の真中より幅五寸入りたる所を丈二寸八分位になし、裏より摘んで五分程縫ひ、此時幅九分長さ五寸の飾紐と、幅九分長さ三寸五分の飾紐とを丈二つに折りて縫付くるなり、次に後の飾紐の先きを劍形になして紵付け、次に紐の上を一寸程折返して四枚となし、下の方は二枚になし、上より一寸上りたる所にて小さく紐幅に稜を取り、其所に裁落しの

切にて縁を付け、是れを後の真中に綴附くるなり、前の飾りは黒絲二本を真直に渡し、其上に服と同じ縫をなすなり。

○幅二尺四寸長さ二丈二尺二寸の布を以て高等學校教授の禮服の裁方。

但地質は毛織物にて絹セーブル、アルバカ、カシミヤ、毛縞子等にて色は黒、此服は明治卅三年に禮服と定められしなり。

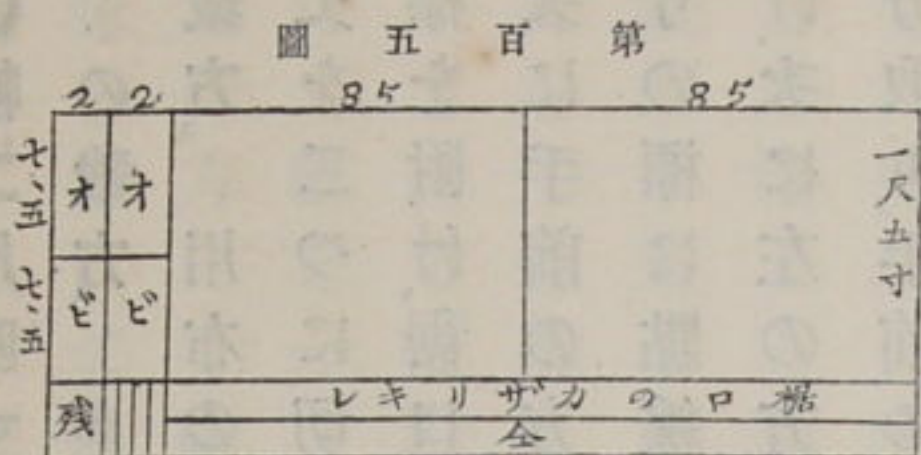
裁切寸法。

身丈_{後三尺二寸}_{前三尺一寸} 身幅二尺四寸、 袖幅二尺四寸、 袖丈一尺八寸、 肩幅五寸、 衿肩六寸、 見返し幅八寸、 丈一尺二寸。

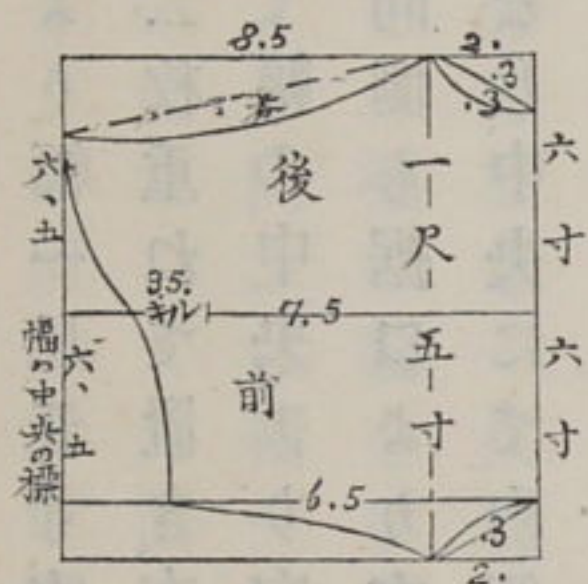
縫方。第一に袖を出し、口先の方を幅一寸五分残し置き、袖下を袋縫になし、次に口先を幅一寸五分残せし所を普通に袖下を

み)次に見返し切を紵付くるなり、次に上前は、上より裾口を三つ折りになして紵付け、次に下前と同様に見返し切をつけ、(但釦掛の切の下には縫代だけあれば宜し)次に幅四寸、丈一尺二寸の布を幅二つ折りになして、輪の方を上前の端と揃へ、幅一つばいに折りて見返し布の上に紵付くるなり、次に衿に心を入れて付け、衿幅七分の出来上りになして紵付け、次に上前と下前との衿先にフックを付け、下前衿にて肩より八分下りてフックを掛ける様に衿より身頃にかけて門をなす、次に裾口を三つ折りになして紵付りて下前と同様に門をなす、次に裾口を三つ折りになして紵付くるなり、次に上前の裏にも肩より八分下りて横に一つ穴を明け、次に残りを三等分して二つ明くるなり、次に身頃の切と釦掛の切を、釦穴の穴と穴との間にて止め置くなり、次に

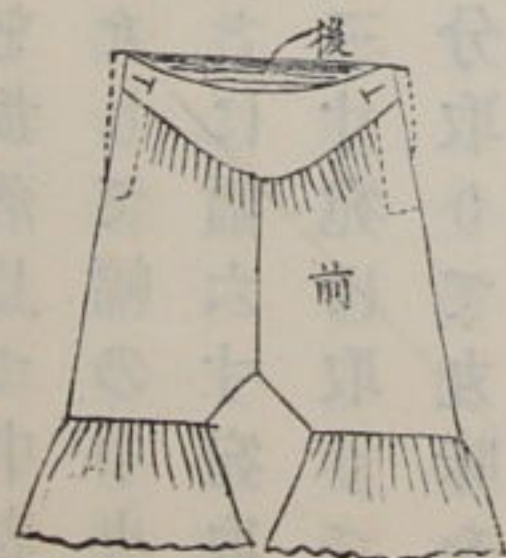
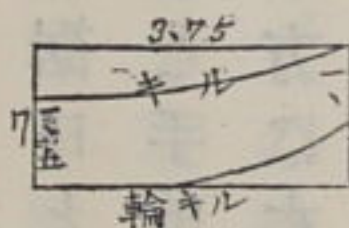
下前には共切の包釦を三個付くるなり、次に袖口には幅一寸入りたる所を前後にて大針七針になして二目落しに白の打紐にて縫ひ、袖下に五寸程長くなし置くなり。



し見返



方裁の帯前



出来上り圖

○幅二尺四寸長さ二尺一寸の布を以て、五六歳のドウロワースの裁方。(第百五圖)

裁方。用布の内より幅一尺五寸丈一尺七寸を裁落して中表に丈を二つに切り、二枚重ねて置き、右を裾口となして幅の中央に標を付け、裾口にて幅の中央より向ふと手前とに幅六寸宛取り、次に手前の方も向側も裾口より左の方に丈三寸宛に取りて六寸の標に點線をなし、中央にて内側の方に三分取りて丸味を付け、次に左の方にて幅の中央より向ふにては裾口より丈六寸五分取り、手前の方も同じく六寸五分取りて、手前の六寸五分の所にては裾口より丈六寸五分取り、幅の中央にては裾口より丈を七寸五分取りて、向側の六寸五分の標の所にては丈を一つばいになして、其標より七寸五分の標に當りて六寸五分の標迄、圖の

如く丸味を付けて通標をなし、手前の丈六寸五分の標より裾口三寸まで内側の方に少しく丸味を付けて裁落し、次に向側の幅六寸五分の標より裾口の三寸に當て點線を引き、其中央にて五分内側に丸味を付けて布を裁切り、次に幅の中央にて丈七寸五分の標より裾口の方に丈三寸五分切込むなり、次に帯の裁方は幅四寸丈七寸五分の布を一枚取り、中表に幅を二つ折にし、次に丈も二つ折になして幅の輪を手前に、丈の輪を左になし、丈の輪の方にて幅の輪より向ふに幅一寸五分取り、右の方にては向側にて幅を一つばいになして内側に丸味を付けて標をなし、次に右の方にて向ふより手前の方に幅一寸に取りて、外側の方に丸味を付けて裁切るなり。

縫方。第一に胯下二寸の所を後を二分の縫代に前を一分の縫

代になして縫ひ、前の方に折りを返し、端を三つ折になしてまつり付け、(左右共同じ)次に裾口の飾布を一枚づゝ輪に縫合せ、裾口は細く三つ折になしてミシンを懸け、次に裁目の方を一尺二寸づゝに縫ひ縮め、裾口の處にて表の布と飾布と見返幅五分の布とを裏の方に當て三枚一所に縫ひ、見返幅を二分にして裏にてまつり付け、次に前後の膀上を袋縫ひになす、其縫ひ方は膀上を前と前とを合せ、後は左右の後膀上を合せて、始め表より縫ひ代を浅くなして前の端より後の端まで縫ひ付け、次に引返して裏を見て、端より端迄縫ひ、次に幅の中央を三寸五分切りたる所に、幅一寸五分丈四寸の布幅の中央を丈三寸五分切り込みて、之を三寸五分切り込みたる所の表の方に當て縫ひ、次に裏返して見返しの端を細く折りてミシンにて縫ひ付け、次に上の方を前後

共七寸宛に縫ひ縮めて前の方は帯にて挟みて縫ひ、帯幅を一つばいになして上も横も飾ミシンにて押へ置き、次に後は幅二寸丈七寸五分の布を表より縫ひ付け、幅を一つばいになして躰にて押へミシンをかけ、次に前帯の左右の端にて帯幅の中央にて端より二分入りて釦穴を横に一つ宛明け、後の帯には前の釦穴に合ふ様に釦を左右に附くるなり。

○幅二尺長さ二尺五寸五分の布を以て三四歳の下着の裁方。

地質はフランネル或は白キャリコを用ゆ。

裁方(前身頃の裁方) 用布の内より幅九寸丈六寸五分の布を一枚取り、中表に幅を二つに折り、幅の輪の方を手前にして左を肩山に、右を裾口になして、肩山の方にて、幅の輪の方より向ふに衿肩を二寸五分に取り、次に肩山より裾口の方に顎を一寸五分に

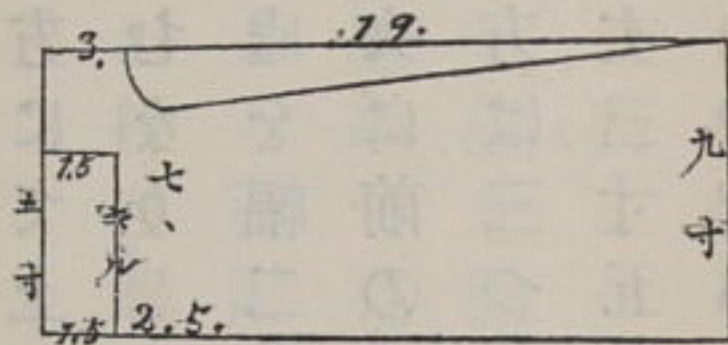
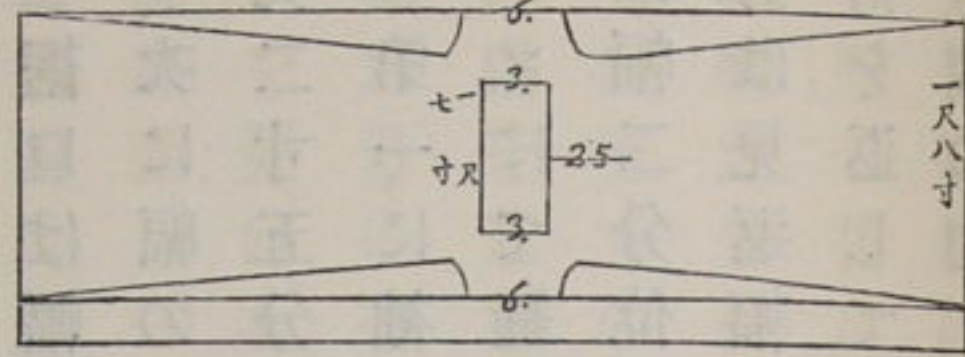
肩幅を一寸二分に取り、其所にて肩山より裾口の方に丈三分に取り、二寸五分の標より肩幅の線を引き、次に幅の裁目の方にて肩山より裾口の方に丈三寸に取りて肩幅の標より點線を引き、其中央にて内側に幅六分に取りて前袖附と同様に裁落すなり。**縫方。**第一に前後の肩を合せて縫ひ、其縫目は左右に開き、其端を三つ折りになして表より飾ミシンを懸け、次に兩脇を縫ひ、其縫目は左右に開きて端を三つ折りになして表より飾ミシンを懸け、次に袖附の所を幅三分位のテープ又は斜の白きキャリコにて布をくるみてテープの表より飾ミシンを懸け、次に裾口より前の中央及衿肩の所まで袖附と同じくテープにてくるみてテープの表よりミシンを懸け、次に裳を出し、幅二尺と一尺六寸との二布を縫合せ、縫目は左右に開き、端を三つ折りにして表よ

り飾ミシンを懸け、次に之を輪になる様になして上より縫合せ、其縫目を右の方になる様にし、折りは左右に開きて端を三つ折りになして飾ミシンを懸け、次に前の中央を三寸切込みて其止りの所を幅一寸切込み、右の方は裏に細く三つ折りになしてミシンを懸け、左の方は幅一寸の所より裏の方に折返して端を二分位折りて表より飾ミシンを懸け、三寸の止りの所にて六七分左を上になる様に重ねて門止めをなし、次に裾口を、始め幅二分に折り、次に幅一寸三分に折りて表より飾ミシンを懸け、次に上の方の廻りを全體にて一尺五寸に縫ひ縮め置き、帯を出し、九寸五分の布を丈を継ぎ合せ、其縫目は左右に開きて一尺五寸の所に端より端まで兩端に縫代を出し置きて表より縫附け、次に幅を一つばいになして兩端を縫ひ、裏の端を折りて躡にて押へ、表

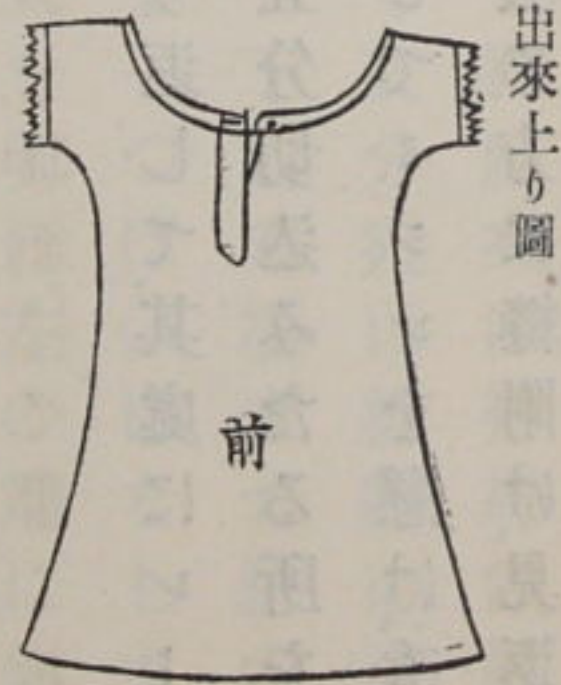
より飾ミシンを懸くるなり。
 釦穴は右の方にて顎の止りに横に一つ明け、次に裾口より五分上りて一つ明け、其中間に一つ明くるなり、次に裳の方にて後の中央に豎に一つ明け、兩脇に一つ宛堅に明け、前の兩端と帶幅の中央とに横に一つ宛明くるなり、釦は釦穴に倣ひて付け、裳の方の釦穴に倣ひて身頃に釦を付け、身頃と裳とは釦にて掛くる様になすなり。
 一二歳の下着は二三歳の下着と同じくなし、只身丈を六七寸長くなすべし。

○幅二尺七寸長さ三尺八寸の布を以て、五六歳の下着の裁方。
 裁方。幅二尺四寸長さ三尺八寸の内より、幅一尺八寸切り落して中表に幅を二つに折り、次に丈を二つに折りて幅の輪を手前

第百七 七
シ ミ ズ の 裁 方



幅の輪の
此所上一
枚のみ切
込む



出来上り圖

に丈の輪を左になし置き、丈の輪を肩山となし、丈の裁目を裾口となして肩山にて幅の輪より向ふに衿肩を五寸に取り、次に肩山より裾口の方に顎を一寸五分に取り、衿肩の止まりの所にて

も丈一寸五分に取りて四角に通標しをなして布を四枚共裁切り、次に幅の裁目の方にて肩より裾口の方に丈を三寸に取り、其所にて幅の輪の方より向ふに幅七寸に取り、三寸の標より七寸に當り裾口は幅一つばいにして斜に通標をなして布を四枚共裁切り、次に幅の輪の方にて上一枚のみ顎の止まりより裾口の方に丈二寸五分切込むなり。

縫方。 第一に袖口の處を幅二分裏に折り返して、其處にレースをミシンにて縫附け、次に前の輪を二寸五分切込みたる所を、左の方は幅二分位、表の方は三つ折りになしてミシンを懸け、次に右の方は見返幅一寸丈三寸五分の布を表の方に縫附け、見返の方に折を返して幅を一つばいになし、裏の方は襍にて押へ、下の端はり圖の如くにしてミシンを懸け、次に袖附より裾口まで前

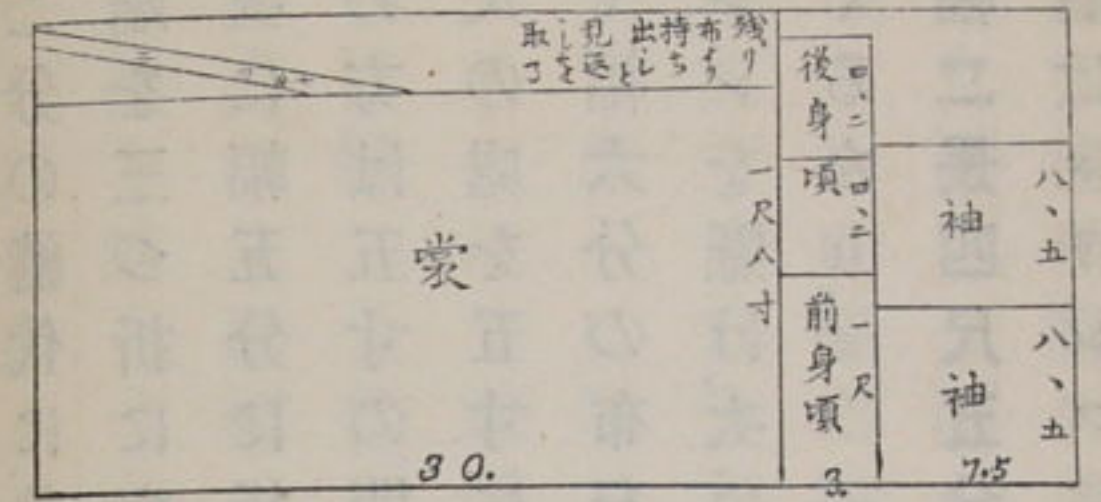
を二分の縫代に、後を一分の縫代になして縫ひ、後の方に折を返し、端を三つ折になしてまつり附け、次に裾口を始め幅二分に折り、次に幅五分に折りて表より飾ミシンを掛け、次に衿肩の所を前の方は五寸の間を見返を除きて幅二寸五分宛に縫縮め、後の一尺の處を五寸に縫縮めて、見返の端より下前の端まで斜の布にて幅六分の布を表より縫附け、次に幅を一つばいになして飾ミシンを懸け、次に右の衿の端に横に釦穴を明け、左の端に釦を附くるなり。

○幅二長四尺五分の布を以て、一二歳の簡單服の裁方。
地質はメリンスにて作る。

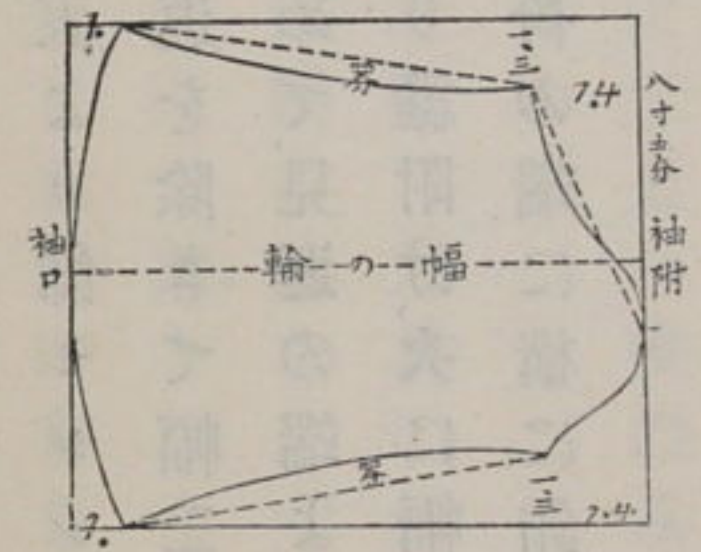
袖の裁方。 用布の内より幅一尺七寸丈七寸五分の布を一枚取り、中表に幅を二つに折りて幅の輪の方を手前になし置き、左を

袖口となし、右を袖附にして袖附の方にて幅一寸三分を手前より向ふに取り、其所にて又丈を右より左に一寸四分に取り、次に

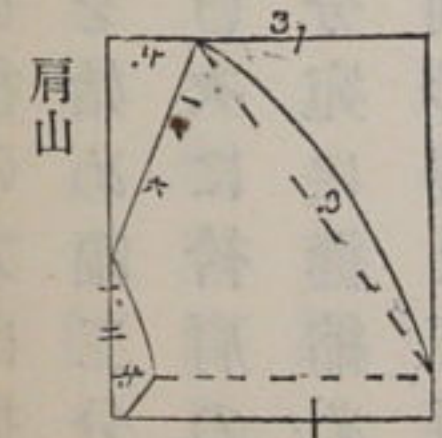
第百八十八圖



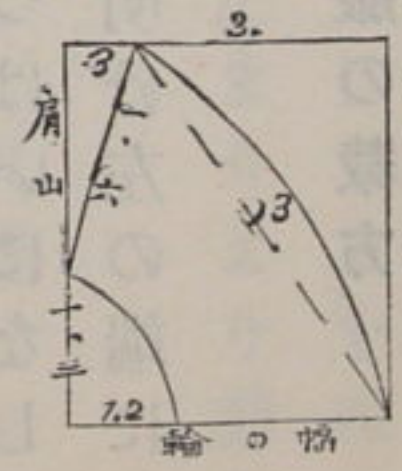
袖の方裁



後身頃の裁方

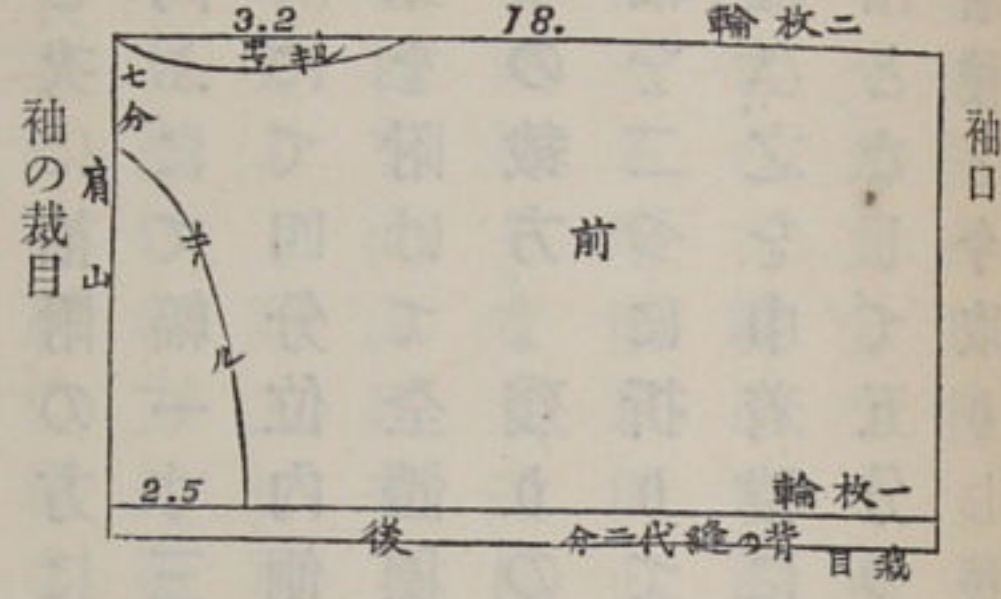


前身頃の裁方

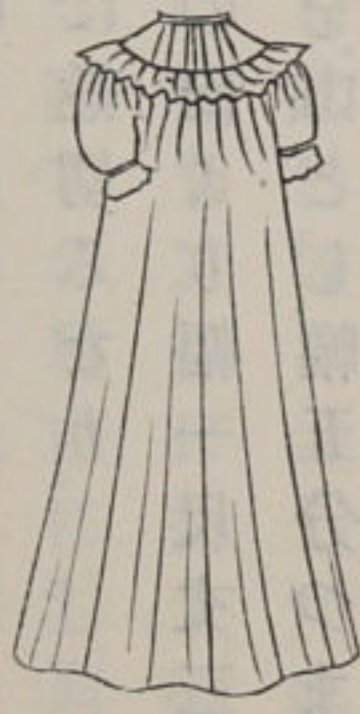


自分の向側にて袖附の方より袖口の方に丈を一寸四分に取り、其所にて向ふより手前の方に幅一寸三分に取り、次に袖口の方より袖附の方にて手前の方も向ふも丈を一寸宛に取り、幅の中

裳の方裁



出来上り圖



一六二
央にて丈を一つばいにして丸味を持たせて圖の如く標を付け、次に一寸の標より袖附の方に幅一寸三分取りたる標に尺を斜に當て點線を引き、其中央にて内側の方に五分位丸味を付けて裁落し、次に袖附の方にて手前より向ふに幅三寸取り、其標と自分の向ふにて幅一寸三分取りたる標に尺を當て凡そ三分の一位の所にて四分位内側に丸味を付け、それより手前の方は外側に丸味を付けて全體標通りに裁切るなり。

前身頃の裁方。 残りの用布の内より幅一尺丈三寸の布を一枚取り、幅を二つに折りて中央を山とし、幅五分つまみて端より端まで縫ひ、之を巾着稜になして其縫目より幅一寸五分離れたる所を山となして五分つまみて縫ひ、之も巾着稜となし、前に取りし巾着稜と今取りし稜との間に凡そ六分位のレースを置きて、

一六三
巾着稜の兩端に飾ミシンを懸け、其ミシンにてレースを押へる様になす、又五分つまみて縫ひし縫目より幅一寸五分離れて幅五分つまみて縫ひ、巾着稜になし、其間にレースを置きて飾ミシンを掛くる事前に同じくなし、此の如くなしして此幅の一尺あるかぎり同じくなし、次に中表に幅を二つに折り、幅の輪を手前に幅の裁目を向ふになし置きて左右の肩山にし、肩山の方にて幅の輪の方より向ふに衿肩を一寸三分取り、次に幅の輪の方にて肩山より裾口の方に顎を一寸二分に取り、衿肩の標より顎を繰り落し、次に衿肩の標より向ふに肩幅を一寸六分取り、其所にて肩山より右の方に丈三分取りて肩幅の標を付け、次に右の方に幅の輪の所まで肩の止りより點線を引きて其中央にて外側の方に三分出し、肩幅の標より三分の所を通りて幅の輪の所に

終る様に丸味を附けて裁落すなり。
後身頃の裁方。 残り布より幅四寸二分丈三寸の布を二枚取り、幅の裁目の端より二分持ち出しの縫代を取り置き、次にレースを置きてレースの端より幅七分五厘離れたる所を山となして幅五分つまみて端より端まで縫ひ、之を巾着稜となして其縫目より幅一寸五分離れたる所を山となし、幅五分つまみて縫ひ、之を巾着稜となし、其稜と稜との間にレースを置きて巾着稜の兩端は飾ミシンを掛け、残り一枚は見返の縫代を二分取りて其縫代より七分五厘離れたる所を山となし、幅五分つまみて端より端まで縫ひ、之も巾着稜となし、又其縫目より幅一寸五分はなれたる所を山となして幅五分つまみて之を巾着稜となし、其間にレースを置きて巾着稜の兩端に飾ミシンを掛け、幅の端まで同

じく稜を取りてはレースを置きて飾ミシンを掛け、次に中表に二枚重ね、但其重ねる時に持出しの縫代と見返の縫代とを合せ置く、縫代を取りたる方を手前になし、左の方を肩山の方にて手前より向ふに縫代を除きて衿肩を一寸二分取り、次に縫代の所にて肩山より右の方に丈三分取り、一寸二分の標より後衿肩を繰り、次に衿肩の標より向ふに肩幅を一寸六分取り、其所にて肩山より右の方に丈四分取りて、肩幅標を附け、次に肩幅の止まりより右の方にて持出し及見返しの縫代を取りたる所まで點線を引き、其中央にて三分外側の方に丸味を附けて裁落すなり。
裳の裁方。 丈一尺八寸幅三尺の布を取り、中表に幅を二つに折り、次に幅の裁目の方にて背の縫代二分取り置きて又幅を二つに折り、都合四つ折りになる、二枚共輪の方を向ふに輪の一枚の

方を上になして手前になし、幅の二枚輪の方にて肩山より裾口の方に丈三寸二分に取り、其中央にて一寸内側の方に丸味を付けて裁落し、次に肩山の方にて幅の二枚輪の方より手前の方に幅七分取り、次に手前の方にて肩山より裾口の方に丈二寸五分に取りて、七分の標より少しく外側の方に丸味を付けて二枚共裁落すなり。

○衿。衿は斜の布にて幅七分丈七寸の布を用ふ。

縫方。第一に袖の廻りを躰糸にて巻き縫ひになし、次に袖口にレースをミシンにて縫ひ付け、袖口より七分入りたる所を幅四寸五分位に縫縮めて其上にリボンをミシンにて縫ひ付け、次に袖下を縫ひ、縫目は左右に開き、次に身頃の肩を前後合せて縫ひ、

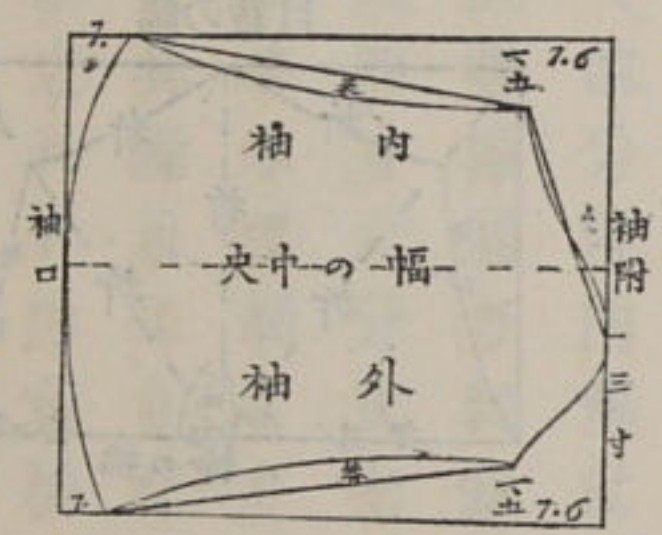
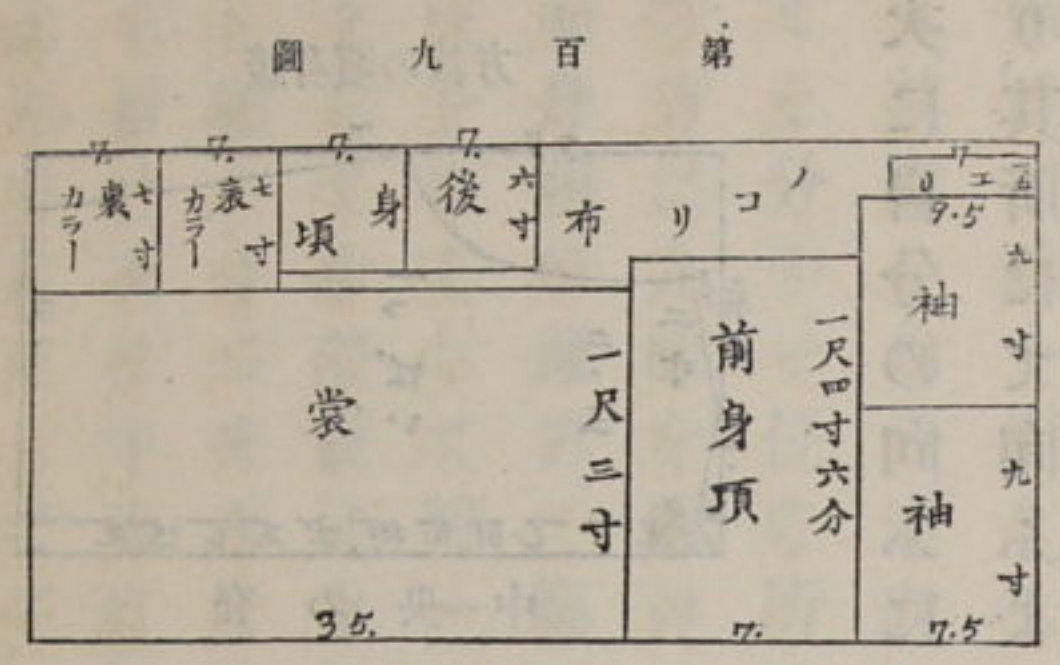
縫目は左右に開きて両端を三つ折りになしてミシンを懸け、次に身頃の廻りに幅一寸位のレースにギャザーをなして縫ひ付け置き、次に裳を出し、幅の裁目の所を上より三寸残し置きて下を縫合せ、右の方に折を返し、端を三つ折りになして飾ミシンを掛け、次に裾口を始め幅二分に折り、次に幅五分に折りて表より飾ミシンを掛け、次に肩の幅七分の所を前後合せて縫ひ、縫込みは左右に開きて端を三つ折りになしてミシンを掛け、次に丸味を付けて裁落したる所を身頃のレースを附けたる廻りだけに縫縮めてレースを挟み、身頃と裳とを縫合せ、其縫込みはテープにてくるみてミシンを懸け、次に後身頃の右の方に見返しを縫附け、左の方は持出し幅を四分にしてミシンを掛け、持出し及見返の止まりに閉止めをなし、次に衿を斜の布にて端より端まで

縫付け、上り幅三分位になして飾ミシンを懸け、次に袖の山にギヤザーをなして脇の縫目より少しく前の方に下ぐる様になして袖を縫付け、其縫目をテープにてくるみてテープの表よりミシンを掛け、次に釦穴を後の右衿先に横に一つ明け、次に衿の縫目より五分下りて一つ明け、残りを三等分して二つ明け、左の方は穴に倣ひて釦を附くるなり。(出来上り圖参照)

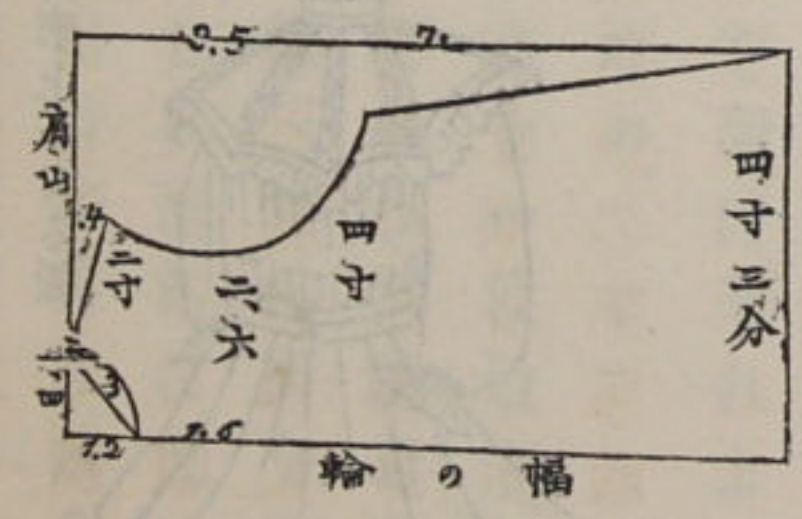
○幅二尺長さ五尺一寸五分の布を以て、二三歳の簡單服の裁方。

地質はカシミヤ、セル、メリンス及びキャリコ等にて作る、羅紗にて作る事もあり。

袖の裁方。始め袖を裁つに幅九寸丈一尺八寸の布を取り、中表に丈を二つ折りになして丈の輪を左の方になして袖口となし、



袖の裁ち方

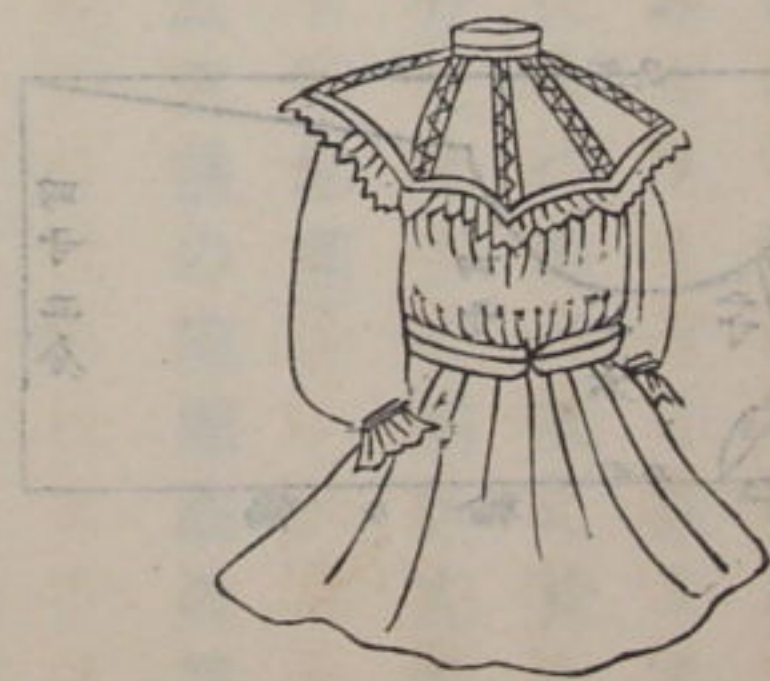
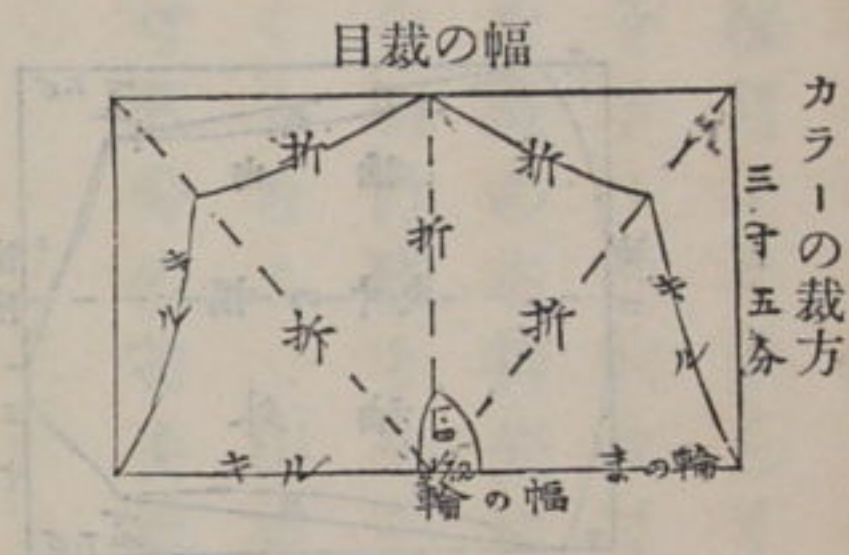
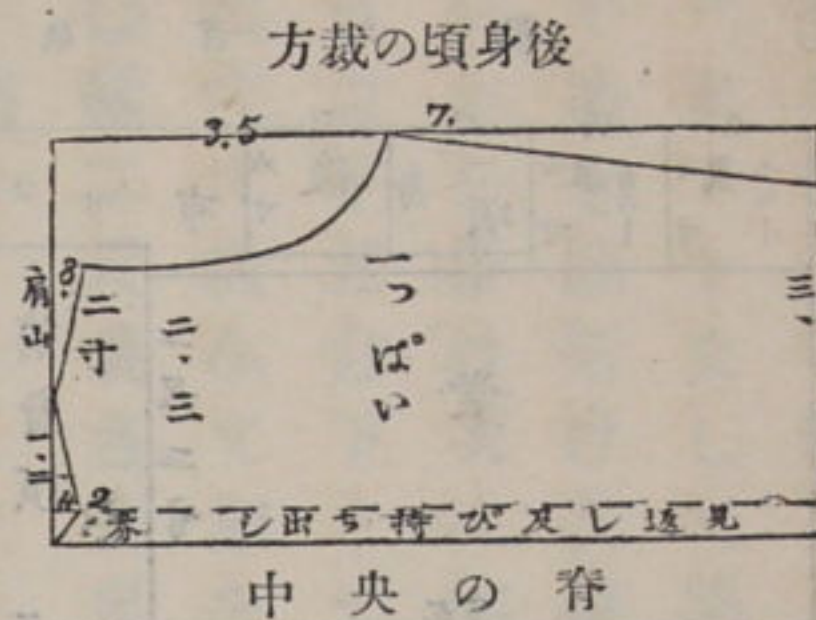


前身頃の裁方

右の方を袖付けとなして平に置き、袖付けの方にて幅一寸五分手前より向ふに取り、其所にて丈を右より左に一寸六分に取り、

付け、次に一寸の標より袖附の方にて幅一寸五分取りたる點に斜に尺を當て線を引き、其中央にて内側の方に五分位の丸味を附けて線を引き、次に袖附けの方にて手前より向ふに幅三寸取り、其點と自分の向ふにて幅一寸五分取りたる點に尺を當て凡そ三分の一位の所にて四分位内側に丸味を附け、それよりは外の方に丸味を附けて全體標通りに裁切るなり。
前身頃の裁方。 幅一尺四寸六分丈七寸の布を一枚取り、幅の中央を山として幅一寸つまみて端より端まで縫ひ、其縫目を平になして巾着稜になし、又其縫目より左右に幅三寸の所を山となし、幅一寸つまみて縫ひ、之れも巾着稜になし、其兩端に飾ミシンを掛け、次に中表に幅二つに折り、幅の輪を自分の方、裁目を向ふの方になして平に置き、左の方を肩山と定め、肩山の方にて幅

次に自分の向ふにて袖附の方より袖口の方に丈一寸六分に取り、其所にて向ふより手前に幅一寸五分に取り、次に袖口の方より袖附の方にて手前の方も自分の向ふも丈を一寸宛に取り、幅の中央にて丈を一つばいになして丸味を持たせて圖の如く標を



出来上りたる圖

の輪の方より向ふに衿肩を一寸四分に取り、次に幅の輪の方に
て肩山より右の方に丈一寸二分に取りて顎となし、衿肩より顎
の所まで點線を引き、其中央にて三分位中の方に丸味を持たせ
て繰り、次に衿肩の標より向ふに肩幅二寸に取り、其所にて肩山
より丈四分に取りて少しく外の方に丸味を持たせて形を作り
次に幅の縫目の方にて左より右の方に丈三寸五分に取り、其所
にて幅を輪の方より向ふに四寸になして顎の止まりより一寸
下りし所を手前より向ふに幅二寸六分に取り、肩幅の止まりよ
り二寸六分に當りて四寸に終る様に袖附の形を作り、次に幅四
寸の所より裾口まで斜に尺を當て標を付け、輪の方は其儘にな
して他の線を裁切るなり。
後身頃の裁方。幅六寸丈七寸の布を二枚取りて片端より幅二

寸九分入りたる所を山となして一寸つまみて縫ひ、其縫目を平
になして巾着稜になし、其兩端に飾ミシンを掛け、二枚共同じに
なしたる後、中表に二枚重ねて幅二寸九分の方を手前になし、背
の中央となして持ち出し及見返しに幅五分左より右の端まで
取り置き、其所にて左より右の方に丈四分取り、幅五分の標より
衿肩を一寸二分に取りて少し内側の方に丸味を持たせて通し
標をなし、次に肩幅を衿肩の標より向ふに幅二寸に取りて其所
にて丈を八分取りて肩幅の標を引き、次に自分の向ふにて左よ
り右の方に丈三寸五分取り、其所にて幅を自分の方より向ふに
三寸五分に取り、次に始め衿肩の所にて四分取りたる標より二
寸下りし所にて幅を二寸三分になして袖附の形を作り、幅三寸
五分の所より裾口幅を三寸になして尺を斜に當て通し標をな

して其通りに裁切るなり。
カラーの裁方。 幅七寸四角の布を中表になして二枚重ね、幅を二つ折りになし、次に丈を二つに折りて又次に斜に折りて同寸になし、中央にて二分位内側の方に丸味を付けて裁切るなり、裁ち終れば之を開きて又中表に幅を二つに折り、左の方を後身頃と定めて幅の輪を手前になし、幅の輪の方にて左より右の方に丈三寸取り、其標より又四分取り次に四分の所にて手前より向ふに衿肩を一寸四分になし、三寸の標より後衿肩の通りに丸味を持たせて標を付け、次に四分の標より丈一寸二分となして一寸四分の標より顎を繰り、次に後の輪を裁切るなり。
裳。 裳は幅三尺五寸丈一尺三寸の布一枚にて作る。

○衿

衿は幅一寸五分丈七分の布を一枚要す。
縫方。 第一に袖を出して袖の周圍を躰糸にて卷縫ひになし、次に袖口にレースを縫付け、口先より七八分入りたる所を周圍五寸位に縫縮めてリボンにて押へ、飾ミシンを掛け次に袖下を縫ひ、其縫目は左右に開き、次に肩を前後合せてミシンにて縫ひ、其縫目は左右に開きて縫込みの端は地質の薄き時は端を三つ折りになして飾ミシンを懸け、次に脇を縫ひ、縫目は後の方に返して端を三つ折りになして飾ミシンを懸け置き、次に後身頃の右の方に幅八分丈七寸五分の布を端より端まで縫ひ付けて上り幅五分になして裏の方に躰にて押へ、表より飾ミシンを掛け、次に左の方は幅一寸五分丈七寸五分の布を取り、表の方に縫付け、

持出し幅五分になして飾ミシンを掛け、次に裳の布を取り、之を輪になる様に縫合せ、其縫目は右になして折は後の方に返してミシンにて押へ、次に裾口を始め二分に折り、次に五分に折り、飾ミシンを掛け、之を身頃の廻りの寸法だけに縫縮めて身頃と裳とを縫合せ、縫込みの端はテープにてくるみ、テープの表よりミシンを掛け、次に衿飾は圖の如く表の方にレースを飾りとして八本ミシンにて縫付け、其廻りにレースを裏表にて挟みて縫付け、(但衿肩及顎の所は附けず)其縫附くる時に角の所はレースに稜を二つ三つ取りてミシンにて縫ひ、之を引き返して表より飾ミシンを掛け、次に前身幅の中央と衿飾の幅の中央とを合せ、右後は後身頃の端と衿飾の端と合ふ様に左後は持出しだけ飾の端より出る様になして身頃と衿肩と合せて躰にて綴じ付け、

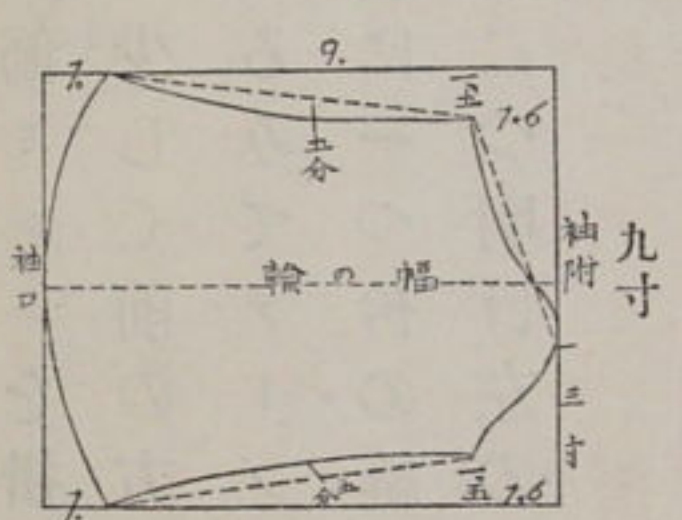
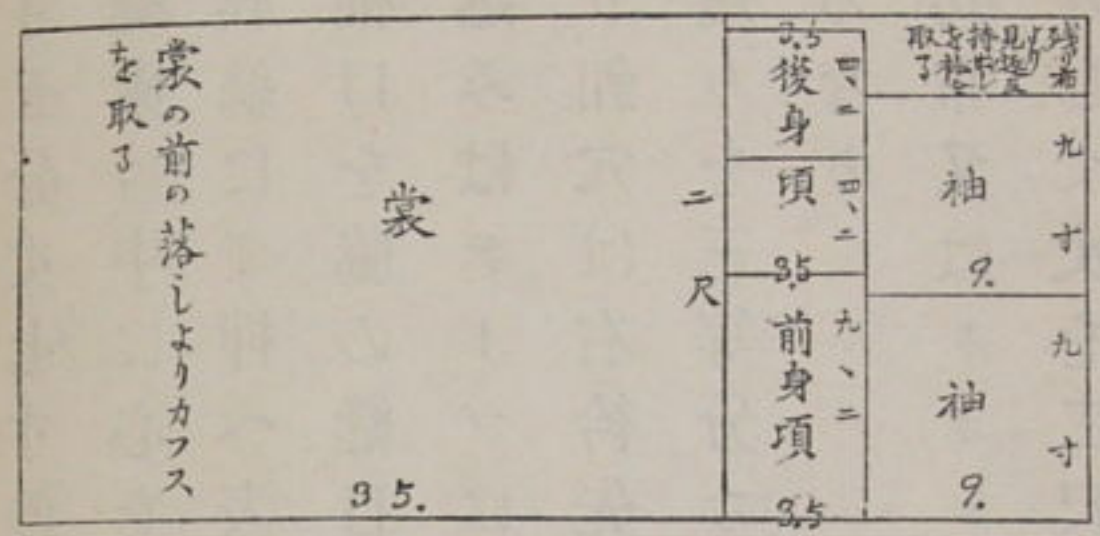
幅一寸五分丈七寸の布を衿となして、後身幅の端より端まで表より縫付け、中に心を一枚綴付けて、両端を縫ひ、幅上り五分になして躰糸にて押へ、表より飾ミシンを掛け、次に袖山をギャザーして袖口を脇の縫目より少しく前の方に下ぐる様に袖を付け、其縫込みはテープにてくるみてテープの表よりミシンを掛くるなり、釦穴は右衿先に横に一つ、衿の縫目より五分下りて一つ明け、残りを三等分なして二つ明け、左の方は釦穴に倣ひて釦を附くるなり。

帯は共布又はリボンにても宜し、共布の時には幅上り一寸五分位になして丈を二尺位になし、前の所にてピンにて止め置くなり、又リボンの時は丈三尺位になして後にて結び置くなり、其時に兩脇に帯を通す幅二分丈二寸の紐を身頃と裳にまたがせて

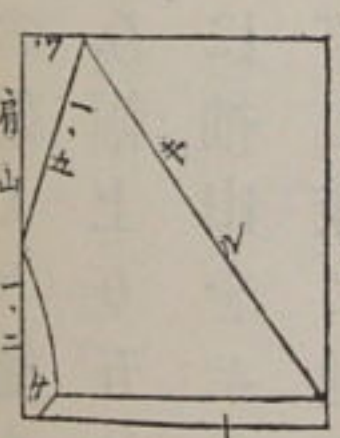
付け置くなり。(出来上り圖参照)

○幅二尺長さ四尺七寸五分のセルを以て、三四歳の女兒洋服の裁方。

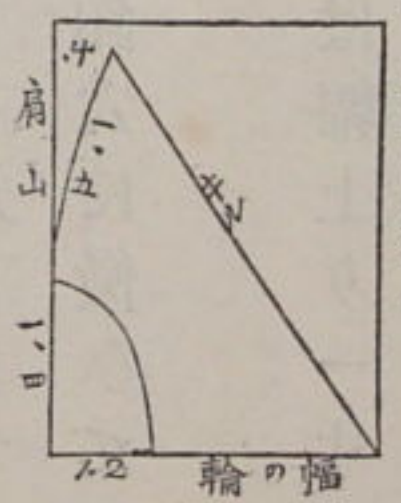
圖 十 百 第



袖の裁方



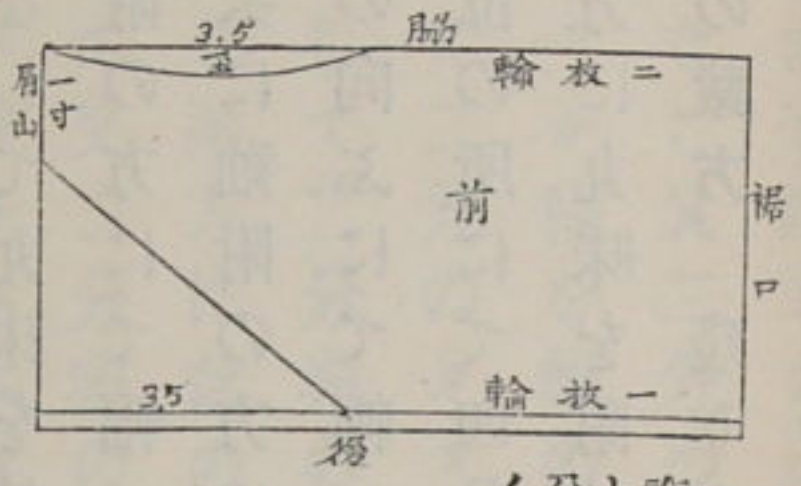
後身頃の裁方



前身頃の裁方

代し及持
三の見出
分縫返し

方裁の裳



脊の縫代
として二
分取り置

圖り上來出



袖の裁方。用布の内より幅九寸丈九寸の布を二枚取り、中表に二枚重ねて左右を布の丈の方になして下に置き、左を袖口となし、右を袖附となし、袖附の方にて幅一寸五分手前より向ふに取

り、其所にては丈を右より左に一寸六分に取り、次に自分の向側にて袖附の方より袖口の方に丈一寸六分に取り、其所にても向ふより手前の方に幅一寸五分に取り、次に袖口の方より袖附の方に手前も向側も丈を一寸宛に取り、幅の中央にては丈を一つばいになして丸味を持たせて圖の如く標を付け、次に一寸の標より袖附の方にて幅一寸五分に取りたる標に斜に尺を當て線を引き、次に袖附の方にて手前より向ふに幅を三寸に取り、其標と自分の向ふにて幅一寸五分に取りたる標に尺を當て、凡そ三分の一位の所にて四分位内側に丸味を付け、それより手前の方は外の方に丸味を付けて全體標通りに裁切るなり。

前身頃の裁方。 残り布の内より幅九寸二分丈三寸五分の布を一枚取り、之を幅二つに折りて中央を山となし、二分つまみて端

より端まで飾ミシンを掛け、次に其縫目より左右に四分宛の所を山となし、又二分つまみて飾ミシンを掛け、(即一番始めに取りたるタツク稜を幅の中央となす)其縫目より又幅四分の所を山となして二分のタツクを取り、其縫目より幅一寸離れたる所を山となして二分宛のタツクを三本取ること前と同様にし、幅の中央より兩方に此の如く二分宛のタツクを三本取りて、又幅六分置きて又二分宛のタツクを三本取り、又幅六分置きては二分宛のタツクを三本取るなり、而して中表に幅を二つに折り、幅の輪の方を手前に、幅の裁目を向ふになして平に置き、左の方を肩山と定め、右を裾口となし、肩山の方にて幅の輪の方より向ふに衿肩を一寸四分に取り、次に幅の輪の方にて肩山より裾口の方に顎を一寸二分に取りて形能く繰り、次に衿肩の止まりより向

ふに肩幅を一寸五分に取り、其所にて肩山より裾口の方に丈四分に取りて少しく外側の方に丸味を付けて肩の標を付け、次に肩幅の止まりより右の方にて幅の輪の所まで斜に尺を當て通し標をなして布を裁切るなり。

後身頃の裁方。 幅四寸二分丈三寸五分の布を二枚残り布より裁切り、幅の端より幅八分入たる所を山となして二分つまみて端より端まで飾ミシンを掛け、次に其縫目より四分離れたる所を山となして又二分のタックを二本取り、又幅一寸離れたる所を山となして二分宛のタックを三本取りて飾ミシンを掛け、残り一枚の布も此の如くなして中表に二枚重ね、始め幅八分入りてタックを取りたる方を手前になして脊となし、左の方を肩山となして右の方を裾口となし、肩山の方にて手前より向ふに脊

に持出し及見返しを附くる時の縫代に二分取り置きて、其二分の標より向ふに衿肩一寸二分取り、次に二分の縫代の標の所にて肩山より左の方に丈四分取りて後衿肩を繰り、次に衿肩の標より向ふに肩幅を一寸五分取りて其所にて肩山より裾口の方に丈七分取り、肩幅の所まで形を付け、次に右の方にて手前の角の所まで肩幅の止まりより尺を斜に當て通し標をなし、布を裁切るなり。

裳の裁方。 (横布にても宜し) 幅三尺五寸丈二尺の布を取り、中表に幅を二つに折り、次に幅の裁目の方にて背の縫代二分取り置きて、又幅を二つに折り、(都合四つ折りになる) 二枚輪の方を向ふに一枚輪を上になして手前の方になし、左を肩山となし、右を裾口となし、次に肩山の方にて二枚輪の方より手前の方に幅一

寸取り、次に手前の方にて肩山より裾口の方に丈三寸五分取り、一寸の標より斜に通し標をなして裁落し、次に二枚輪の方にて肩山より裾口の方に丈三寸五分取りて其中央にて幅の輪の方に一寸五分位丸味を附けて袖附を繰落なり。

○衿及カフスの用布。衿幅一寸五分裁切りにて丈八寸、カフスは幅二寸にて丈五寸。

縫方。第一に袖を出し、廻りを躰糸にて巻き縫ひにして袖下を縫ひ、其縫目は左右に開き、次に袖口をカフスの丈に縫縮めてカフスを表の方に心と共に縫附け、折はカフスの方に返し、次にカフスの両端を縫ひ、縫込は左右に開きてカフスの幅を一つばいにして裏にまつり附くるなり、次に身頃の前後の肩を縫合せ、縫込は左右に開き、端を三つ折になし、飾ミシンを掛け、次に身頃

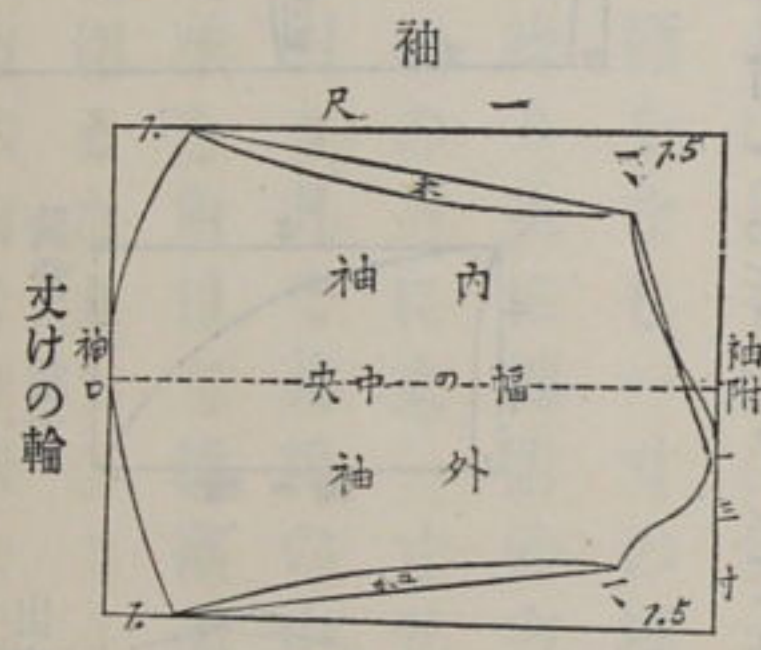
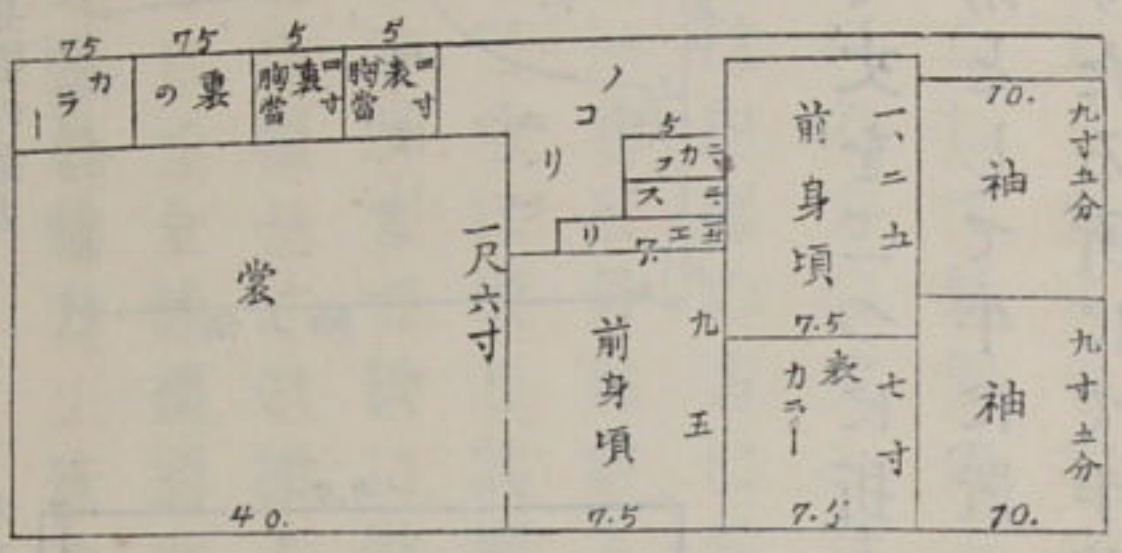
の斜に裁落したる所に、後より前の中央まで、又前の中央より後までレースを縫附け、肩の所及前の中央には二つ三つ稜を取り置き、次に裳の肩を前後縫合せ、縫込は左右に開きて端を三つ折になし、飾ミシンを掛け、次に幅の裁目の所を斜めに裁落したる所より二寸残し置きて裾口まで縫合せ、折は右の方に返して端を三つ折りになし、飾ミシンを掛け、次に裾口を始め幅二分に折り、次に五分に折りてミシンを掛け、次に肩より斜に裁落したる所を前後共身頃の斜の所に合せて縫縮め、レースを中にはさみて身頃と裳とを縫合せ、其縫込はテープを幅二つに折りて其中に今縫ひし縫込を挟みてテープの表よりミシンを掛け、次に右の後の方を見返となして幅八分丈五寸五分の布を表の方に縫附け、裏の方に返して上り幅四分になして表より飾ミシンを懸

け、次に左の方は幅一寸二分丈五寸五分の布を持出しになし、表の方に縫付け、上り幅四分になして飾ミシンを懸け、持出し及見返しの止まりには門止めをなし、次に衿に心を一枚入れて端より端まで表の方に縫付け、次に上り幅五分になして裏の方に躡にて押へ、表より飾ミシンを掛け、次に袖を凡そ脇の縫目より三寸位前の方に下ぐる様にして袖を縫付け、其縫込はテープにてくるみ、テープの表よりミシンを掛くるなり、釦穴は右衿先に横に一つ、衿の縫目より五分下りて一つ明け、残りを三等分なして二つ明け、左の方は釦穴に倣ひて釦を附くるなり。(出来上り圖参照)

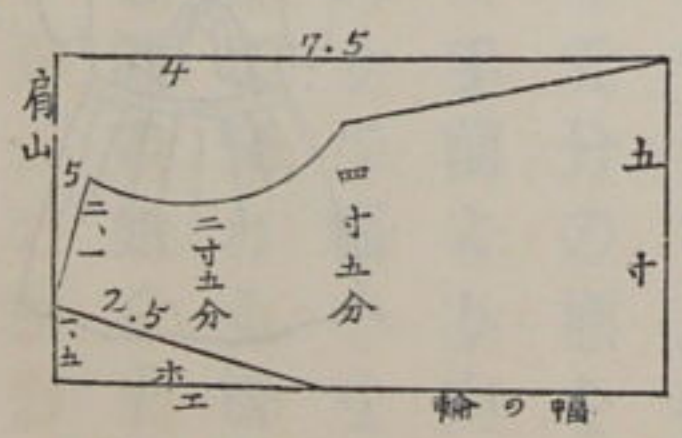
○幅二尺長さ六尺五寸のメリンスを以て、四五歳の簡單服の裁方。

袖の裁方。 總尺の内より幅九寸五分丈二尺の布を取り、中表に

第百一十圖

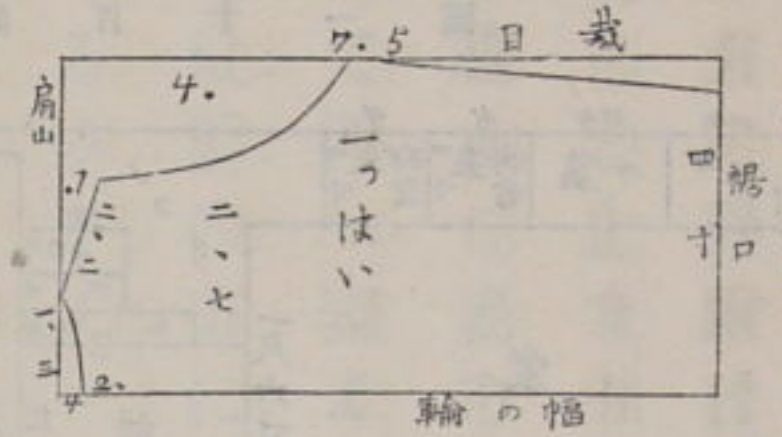


幅九寸五分丈二尺の布を中表になして丈を二つ折りて袖を裁つ

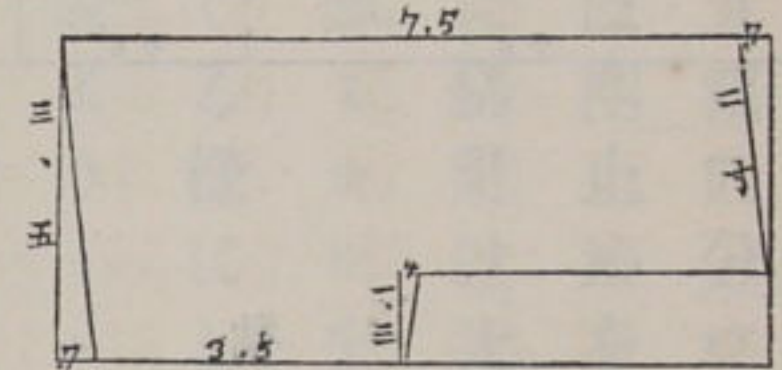


前身頃の裁方 幅一尺を二つに折る

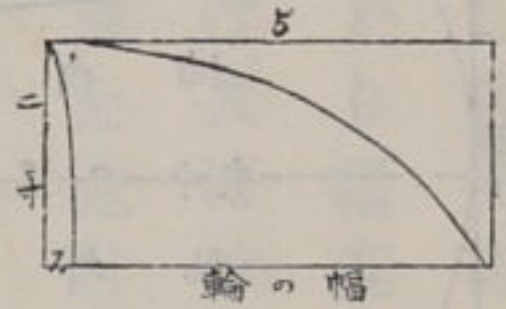
後身頃の裁方



カフの裁方



胸當の裁方



出来上り圖



して丈を二つに折り、丈の輪を左になして袖口となし、右の方を袖附として平に置き、始め袖附の方より袖口の方に丈一寸五分入りたる所にて手前より向ふに幅一寸と標し、次に向側にて袖附の方より袖口の方に丈一寸五分入りたる所にて向ふより手

前の方に幅一寸と標し置き、次に袖口の方にて手前の方も向側と同じく左より右の方に丈一寸に取り、幅の中央にて丈いっばいになして外側の方に丸味を付け、次に丈一寸五分取りたる標と、袖口の方の丈一寸の標とに尺を斜に當て點線を引き、其中央にては内側の方に五分に標をなし、一寸の標より五分の標を通して一寸五分に終る様に繰り、次に袖附の方にて手前より向ふに幅三寸に標し、其標と向側の方に丈一寸五分入りて幅一寸取りたる所まで斜に點線を引き、凡そ其線の中央にて交わる様に手前の幅一寸の標より丸味を付けて繰落すこと圖の如くすべし、而して全體標通りに裁切るなり。

前身頃の裁方。残りの用布の内より、幅一尺二寸五分丈七寸五分の布を一枚取りて、其幅の中央より左右に二寸宛の所を山と

なして二分のタツクを上より四寸位の間に取り、次に其縫目より幅三分離れて又二分のタツクを取り、又六分離れて三分のタツクを取り、都合三本宛左右に取りて飾ミシンを掛け、中表に幅を二つに折りて幅の輪を手前に、裁目を向ふに、左の方を肩山となし、幅の輪の方にて肩山より裾口の方に丈四寸と標し、次に肩山にて手前より向ふに衿肩を一寸五分と標して四寸の標に尺を斜に當て通標となし、次に衿肩の標より向ふに肩幅を幅二寸二分に標し、其所にて丈五分と標を附けて外側の方に少しく丸味を持たせて肩の線を引き、次に自分の向ふにて肩山より裾口の方に丈四寸と標し、其所にて幅を手前より向ふに四寸五分になし、次に自分の方にて肩山より二寸五分下りたる所にて幅を、前に斜に線を引きたる其線より向ふに幅二寸五分と標し、肩の

標より二寸五分の標を通りて幅の四寸五分に終る様に袖附を繰り、次に裾口は幅を一つばいになして幅四寸五分の標より斜に裁落すなり。

後身頃の裁方。 残布の内より、幅九寸五分丈七寸五分の布を一枚取り、幅の中央より左右に一寸七分宛入りたる所を山として二分のタツクを取り、又幅六分離れたる所を山として二分のタツクを取り、次に又六分離れたる所を山として二分のタツクを取り、次に同じ次に中表に幅を二つに折り、幅の輪の方を手前に裁目を向ふにして平に置き、左の方を肩山となし、右の方を裾口となし、肩山の方にて幅の輪の方より向ふに幅一寸三分となし、次に肩山より裾口の方に丈四分と標して後衿肩を繰り、次に一寸三分の標より向ふに肩幅二寸二分と標し、其所にて丈一

寸下りて後肩幅の線を引き、次に自分の向ふにて肩山より裾口の方に丈四寸になし、其所にては幅を一つばいになして肩山より二寸下りたる所にては、幅を手前より向ふに二寸七分になして後肩幅の止まりより二寸七分の所を通りて四寸の所に終る様に袖附の標をなし、裾口は幅を三寸五分になして四寸の所より尺を斜に當て裁切るなり。

カラーの裁方。（裏の方は中央にて繼ぐ）幅七寸丈七寸五分の布を残りの布の内より二枚取り、中表に二枚重ねて幅を二つに折り、幅の輪を手前に裁目を向ふになして平に置き、幅の輪の方にて左より右の方に丈三寸五分と標し、其所にて幅を一寸三分になし、又其所にて右の方に丈を四分に取りて一寸三分の標より後身頃の衿肩に合せて繰り、次に右の端にて自分の向ふより

手前の方に幅二寸に標し、其標より一寸三分の標まで尺を當て通し標をなし、次に幅の裁目の方にて右より左の方に丈を七分に取り、幅二寸の終りの所まで斜に尺を當て通し標をなし、次に幅の輪の方にて左の端より右の方に丈を七分に取り、幅の裁目の方を一つばいになして斜に尺を當て通し標をなし、其通りに裁切るなり。

胸當の裁方。 残布より幅四寸丈五寸の布を二枚取り、中表に二枚重ねて幅を二つに折り、幅の輪を手前になし、左の方より右の方に頸を一寸取り、左の端にては向ふより手前に縫代幅三分取り、次に頸を格好よく裁切り、次に右の方にては幅を一つばいになして外側の方に丸味を持せて裁切るなり。

裳。裳は幅四尺にして丈一尺六寸になす、但横布にても宜し。

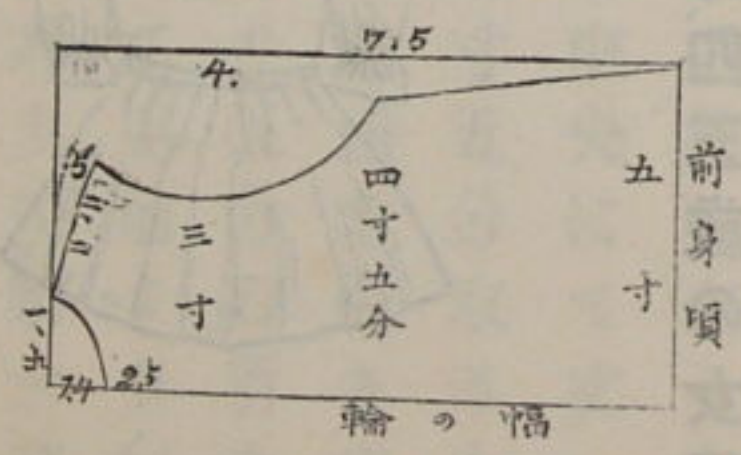
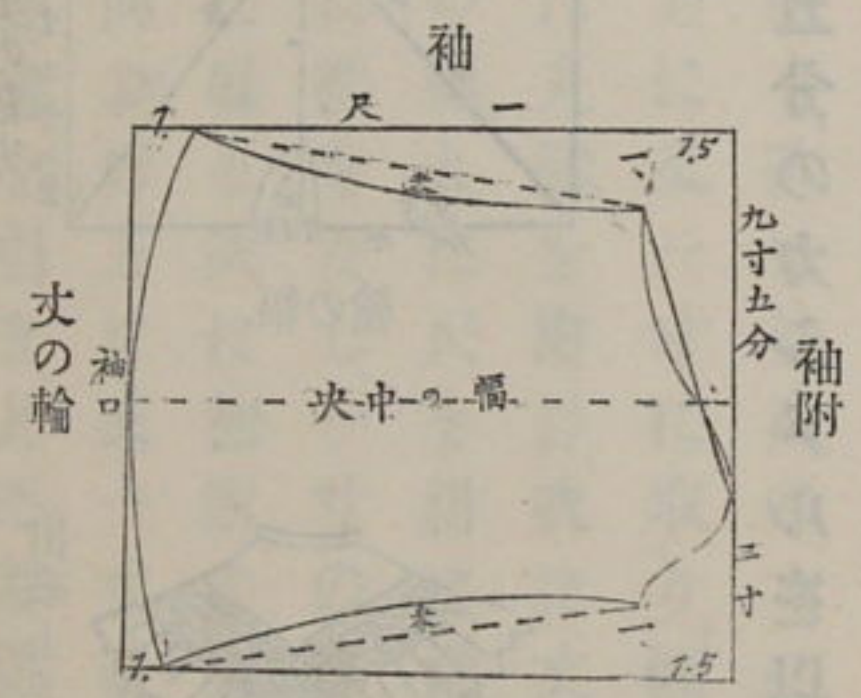
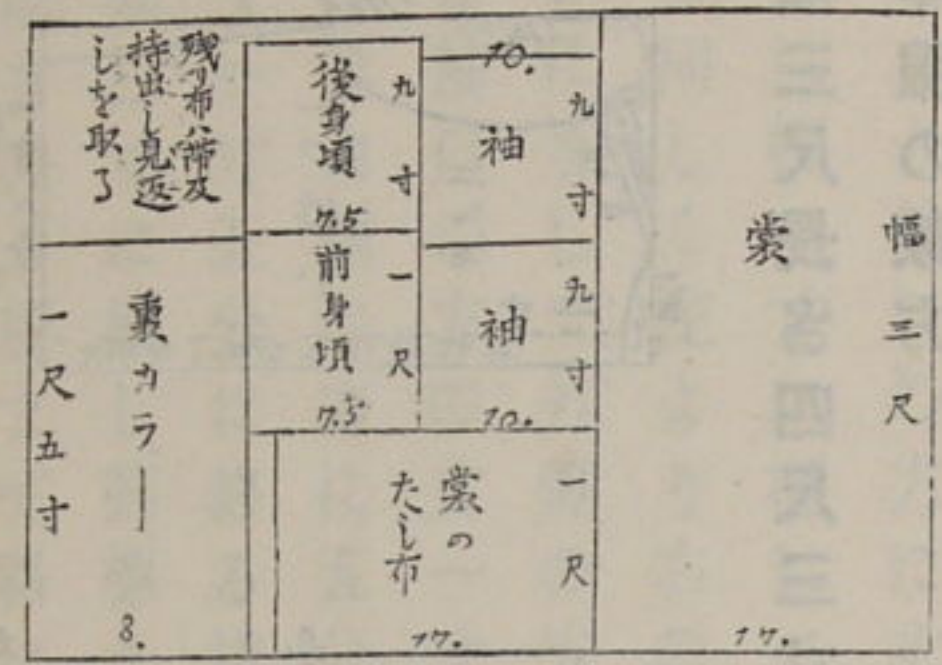
胸當に附くる衿。衿は幅一寸五分丈七寸五分を一枚に用ふ。
 縫方。第一に袖を出して廻りを躰糸にて卷縫になし、次に袖下を縫合せ、其縫目は左前に開き、袖口を四寸七八分位の廻りに縫縮めてカフスを幅二寸丈五寸に裁切りて心の布と一所に表より縫附け、折りはカフスの方に返して両端を合せて縫ひ、縫目は左右に開きて幅を一つばいになして裏にてまつり附けて表より飾ミシンを懸け、次に肩を前後縫合せ、縫目を左右に開きて飾ミシンを懸け、(但地質の薄き時は縫込みの端を三つ折になす故に此地質メリンスなれば端を三つ折りになしてミシンを掛くるなり)次に兩脇を縫ひ、其縫目は後の方に返し、端を三つ折りになして飾ミシンを懸け、次に裳の布を出し、幅を縫合せて輪になる様になし、縫目は右の方になす、其時に上より一寸下りて三寸

位明け置き、(但其縫目にて)それより下は後の方に折りを返し、脇と同じく端を三つ折りになして表より飾ミシンを懸け、次に其三寸明けたる所に別布にて幅六寸五分丈七寸位の布を取り、幅の一方を裳の縫目の前の方にまつり附け、一方の端を裳の縫目の後の方にまつり附け、次に幅六寸五分丈七寸の布の今まつりし止まりより下と底になる所を袋に縫合せて三寸明きたる上と下とに門止めをなしてポケットを作り、次に裾口を始め幅二分に折り、次に幅五分に折りて表より飾ミシンを掛け、裳を身頃の廻りだけに縫縮めて身頃と裳とを縫合せ、其縫込はテープにてくるみてミシンを懸け、次にカラーの廻りに端より五六分入りたる所にリボンを縫附け、裏表合せて縫ひ、引返して表を出し、飾ミシンを懸け、次にカラーの表を身頃の裏の方に當て、後身頃

の中央とカラーの中央とを合せて端より端まで縫付け、カラーの方に折を返して裏のカラーにてまつり付け、次に袖山をギャザーして袖口の所を脇の縫目より少しく前の方は下ぐる様になして袖を付け、其縫込はテープにてくるみてミシンを掛け、次に胸當の布を出し、表胸當の中央に錨いかり或は櫻花等の飾縫ひをなし、裏表合せて顎の所は残して廻りを縫合せ、引返して飾ミシンを掛け、次に衿を出し衿の中央と胸當幅の中央を揃へて衿に心を一枚入れ、端より端まで縫ひ、衿の方に折を返して衿幅を上り五分になして飾ミシンを掛け、次に肩の縫目より一寸六七分下りし所に右の方のみまつり付け、左はまつり付けずして衿の右の端に釦穴を横に明け、左の方に釦を附くるなり、帯はりボンにて長さ三尺五寸にし、後にて結び置き、次にカラーの前の止まり

の所にリボンを結びて飾に附くるなり。(出来上り圖参照)

第百二十圖



くなすべし、而して全體標通りに裁切るなり。
前身頃の裁方。 残りの用布の内より幅一尺丈七寸五分の布を一枚取り、中表に幅を二つに折りて幅の輪を手前に、裁目を向ふに、左を肩山となして下に置き、幅の輪の方にて肩山より裾口の方に顎を一寸四分取り、次に肩山にて手前より向ふに衿肩を一寸五分取りて形よく顎を繰り、次に衿肩の標より向ふに肩幅を二寸二分取り、其所にて丈五分取りて外側の方に少しく丸味を附けて肩の線を引き、次に自分の向ふの方にて肩山より裾口の方に丈四寸と標し、其所にて幅を手前より向ふに四寸五分になり、次に自分の方にて肩山より二寸五分下りたる所にて幅を三寸と標し、肩の標より三寸を通りて幅四寸五分に終る様に袖附を繰り、次に裾口は幅を一つばいになして幅四寸五分の標より

斜に裁落すなり。

後身頃の裁方。 残りの布より幅九寸丈七寸五分の布の一枚取り、幅を二つに切りて中表に二枚重ね、左を肩山となし、右を裾口となし、肩山の方にて手前より向ふに衿肩を持出し及見返しを附くる縫代を二分取り置き、一寸三分取り、次に肩山より裾口の方に二分の縫代の所にて丈四分取りて後衿肩を繰り、次に一寸三分の標より向ふに肩幅二寸二分取り、其所にて丈一寸下りて後肩幅の線を引き、次に自分の向ふにて肩山より裾口の方に丈四寸になし、其所にては幅を一つばいになして肩山より二寸下りし所にては、幅を手前より向ふに二寸七分になし、後肩幅の止まりより二寸七分を通りて四寸に終る様に袖附の標をなし、裾口は幅を三寸五分になして四寸の所より尺を斜に當て裁切

るなり。
カラーの裁方。幅八寸五分丈八寸の布を二枚取り中表に二枚重ねて幅を二つに折り、幅の輪の方を手前になして幅の輪の方にて左より右の方に丈三寸五分に取り、其標より又四分取り、其所にて手前より向ふに衿肩を一寸五分取り、三寸五分の標より後衿肩に倣ひて裁ち、次に四分に取りたる標より前身頃の頸に倣ひて裁落し、次に衿肩の所を幅を眞直に幅の裁目の所まで標を付け、右の方の幅の輪まで尺を斜に當て通し標をなし、左の方にて幅の輪の所まで斜に尺を當て通し標をなし、裁落し、次に丈三寸五分に取りたる所を裁切るなり。
裳(但三尺幅と別に一尺取て四尺になす)残りの用布の内より丈一尺七寸にて幅三尺を一枚と一尺を一枚要す。

○ 帯

帯は幅一寸位にて丈三尺五寸位用ふ。
縫方。第一に袖の廻りを躰糸にて巻縫ひになし、袖口にレースを縫付け、次に袖により丈七分入りたる所を幅六寸五分に縫縮めて其上にリボンをミシンにて縫付け、次に袖下を縫合せ、縫目は左右に開き、次に身頃の肩を前後合せて縫ひ、縫目は左右に開きて端を三つ折りになしてミシンを懸け、次に脇を縫ひ、縫込みは後の方に返し、端を三つ折りになしてミシンにて押へ、次に後身頃の右の方に幅八寸丈七寸五分の布を端より端まで縫付けて上り幅五分になして裏の方に躰にて押へ、表より飾ミシンを掛け、次に左の方は幅一寸五分丈七寸五分の布を端より表の方に縫付け、持出し幅五分になして飾ミシンを掛け、次に裳を縫合

せし其縫目は右になる様になし、折は後の方に返し、端を三つ折りになして飾ミシンを懸け次に裾口を始め幅二分に折り、次に幅五分に折りて表より飾ミシンを懸け、上の方は身頃の廻りだけに縫縮めて身頃と裳とを縫合せ、其縫込みはテープにてくるみてテープの表よりミシンを掛け、次にカラーの廻りは縫代を二分取り置きてリボン二本縫付け、但其時に角の所は稜を取る、其廻りにレースにギャザーをなして裏表のカラーにて挟みて縫ひ、引返して平になし、身頃の見返しの端とカラーの端とを揃へて一方の端は持出しだけ出る様にして躰糸にて綴付け、次に衿に端より端まで縫付け、心を一枚縫目に綴付けて上り幅五分になして表よりミシンを掛け、次に袖山をギャザーして袖口の所にて脇の縫目より三寸位前の方に下ぐる様になして袖

を付け、其縫込みはテープにてくるみてミシンを懸け、次に上り幅二分丈二寸の紐を兩脇に裳と身頃とにかけて兩端を縫付け、其中に帯を通すなり、帯は共布にて幅三寸長さ三尺五寸位になして縫ひ、後の中央にて結び置くなり。(出来上り圖参照)
 釦は後の右衿先に横に一つ、衿の縫目より五分下りて一つ明け、残りを三等分なして二つ明け、左の方は釦穴に倣ひて釦を附くるなり。

渡邊先生遺稿 新裁縫教科書卷之三 終

375.5
W46
3

昭和44年4月 日
資字 60

明治四十一年五月二日印刷
明治四十一年五月五日發行

全三冊
定價

各金

不許
複製

特約販賣所

大阪市東區南久寶寺町四丁目十九番屋敷
東京市日本橋區數寄屋町九番地
東京市神田區神保町
東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地

六合館

前川
林東目

編輯者兼 發行所
東京市本郷區東竹町三十番地 渡邊
印刷者 天野
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目
印刷所 株式會社 秀英舍
東京市本郷區東竹町三番地
發行所 東京裁縫女學
(電話下)



東京裁縫女學校
出版

